

滋賀県立障害者福祉センター

平成 30 年度

年 報

設置主体 滋 賀 県

指定管理者 (公財) 滋賀県身体障害者福祉協会

は　じ　め　に

滋賀県立障害者福祉センターは、平成2年に「心身障害者に関する各種の相談に応じるとともに、教養の向上、健康の増進、社会との交流促進等のための便宜を総合的に供与し、心身障害者の福祉の増進を図る」ことを目的として設置され、当協会が指定管理者として管理代行を行っているところです。

平成30年度は、第三期指定管理期間(平成28年度～平成32年度)の3年目の年にあたり、「利用者一人ひとりに寄り添い、ともに成長するセンター」を目指し、経営方針と経営目標の下、安全安心を基本に、質の高いサービスの提供に努めてまいりました。

しかし、平成30年度は大変自然災害の多い年となり、夏場の猛暑のほか、大雨や台風が次々襲来し、センター開所以来初めて、自然災害のために臨時閉所を2回させていただきました。また、施設設備工事のため11月と3月にそれぞれ各1日臨時閉所をさせていただくなど、利用者の皆様には大変御不便をおかけしました。

事業の推進に当たっては、ボランティアの皆様をはじめ、関係団体や関係機関の方々の温かい御支援と御協力を賜り、臨時閉所があったにもかかわらず、昨年度の年間利用者数は、ほぼ前年度並みの延べ8万6千人弱と、多くの方々に御利用をいただくことができました。

新しい元号での幕開けとなります令和元年度の今年、障害者福祉センターは開設30周年を迎えます。職員一同新たな気持ちで、経営方針の下、一層多くの障害者の利益の増進に寄与できるよう一丸となって取り組んでまいります。

今後とも、関係者の皆様の変わらぬ御指導と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

本書は、平成30年度の事業概要を年報としてまとめたものです。

御高覧いただき、御教示いただければ幸いに存じます。

令和元年7月

指定管理者

(公財)滋賀県身体障害者福祉協会
滋賀県立障害者福祉センター所長

目 次

I 事業の概要	1
1. 行事・交流・大会事業	1
2. スポーツ・文化教室	5
3. 更生相談事業	31
4. 養成・研修事業	34
5. 広報・啓発事業	35
6. 自主事業	36
7. 運営会議等	37
8. 研修状況等	39
II クラブ活動	40
III 利用状況	41
IV 利用者と支える人の声	47
V 施設の概要	49
VI 組 織	54

I 事業の概要

当センターは、障害のある人を対象とした夏まつり等の行事、スポーツ教室、文化教室、医療相談等の事業をライフステージ等に応じて実施するとともに、センター事業を支援していただくボランティア養成事業を実施し、障害のある人の社会参加を進める取り組みの一環としての場を提供した。

1. 行事・交流・大会事業

第28回夏まつり

(1) 期 日 平成30年7月22日(日)

(2) 参加人数等 1,598人

(3) 目 的

障がいのある人もない人も、夏まつりにつどい、障がいの理解と認識を深め、「共に生きることの大切さを実感できる社会づくり」の一助とする。

(4) 内 容

和太鼓演奏、フラダンス、吹奏楽演奏、近隣施設作品展示、縁日、クイックマッサージ、フリーマーケット、模擬店、スタンプラリー、大抽選会、組紐体験、エコ風船飛ばし

(5) 後 援

BBCびわ湖放送、KBS京都、NHK大津放送局、株式会社エフエム滋賀、京都新聞、朝日新聞大津総局、産経新聞社、中日新聞社、毎日新聞大津支局、読売新聞大津支局、滋賀報知新聞社、株式会社ZTV滋賀放送局、東近江スマイルネット、株式会社あいコムこうか

(6) 協 力

滋賀ダイハツ販売株式会社、滋賀日産自動車株式会社、トヨタカローラ滋賀株式会社、株式会社トヨタレンタリース滋賀、滋賀トヨタ自動車株式会社、Honda Cars滋賀東、登録ボランティア

(7) 総 評

今年は、例年にない酷暑のため、屋外での催しを屋内に移したり、取り止めるなどし、参加者等の安全を考慮して開催した。それでも参加者数は、障害のある、ないに関わらず、子どもから大人まで1598人を数え、大変活気のある夏まつりとなった。今年のテーマは「共に生きる一出会いでつながる心と笑顔」として、新たな出会いや再会などにより、多くの参加者の心がつながればという思いを込めて開催したところ8割以上の方に実感していただくことができた。

ステージは、「見る・聞く・感じる」で構成し、フラダンス、吹奏楽演奏、和太鼓と様々なステージ内容を楽しんでいただき、中でも、ワークショップにおいては参加者が体験できる機会を設け、多くの方が参加されるなど、大変好評だった。その他、縁日コーナーや、模擬店、フリーマーケット等のコーナーも、多くの参加者の列で賑わっていた。

フィナーレでは、参加者のメッセージと想いが込められた色とりどりの400個のエコ風船を大空に飛ばし、華やかに夏まつりを締めくくった。



障害者週間啓発イベント（レッツイベント）

（１）期 日 平成30年12月16日（日）

（２）参加人数等 200人

（３）目 的

障害者福祉についての関心と理解を深めるため、障害のある人ない人の交流を深めるとともに障害のある人があらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高める機会とする。

（４）内 容

—車椅子に乗る障害の重い子どもも大人も遊べる体験 跳んで・弾んで・遊びを通じてワクワク体験—
スパイダー・レースランナー・電動移動機器・ベビーロコ・ハンドバイク・アムトライク
—あったらいいな！触れて触って・乗って試してハッピー体験！—

感覚統合器具・姿勢保持具

—もっとオシャレに快適に！楽しむファッション・選べるファッション！—

バリアフリー子供服・ユニバーサルファッション

（５）総 評

スパイダーや移動機器等は今年も人気があり、「自身の力で動いている感覚を得られるのが楽しい」との感想をいただいた。またバリアフリー子供服や姿勢保持具等の展示・体験では、効果、目的、価格や入手方法等教えて欲しいと情報収集されるなど、関心の高さが伺えた。



障害者週間啓発イベント（清掃・交流会）

（１）期 日 平成30年11月29日（木）

（２）参加人数等 94人

（３）目 的

清掃活動と交流会を通して障害者福祉についての関心と理解を深めるためのきっかけとし、広く社会にアピールするとともに、障害のある人自らも社会貢献活動に積極的に参加する意欲を高める機会とする。

（４）内 容

清掃活動：福祉ゾーン一帯の清掃

交 流 会：ふうせんバレーボール等のレクリエーション

（５）総 評

近隣施設や当センターの利用者に広く参加を呼びかけ、福祉ゾーン一帯の清掃活動と交流会を行った。清掃活動では、障害のある、ないに関わらず、参加者全員で歩道の落ち葉やゴミを収集した。参加者からは「多くの方と協力し合って清掃ができてよかった」等の感想をいただいた。

その後、当センターアリーナにて交流会を行った。ふうせんバレーボールやパラシュートを用いた様々なレクリエーションを通して、参加者に楽しみながら交流を広げていただくことができた。



音楽会（ロビーコンサート）

（１）期 日 平成30年8月23日（木）

（２）参加人数 61人

（３）目 的

夏休み中の利用者サービスの向上を図るとともに、障害のある人ない人の交流を深め、障害者福祉の理解・啓発を図る。

（４）内 容

世界の楽器の演奏会、演奏体験会

演奏者：田辺 響 氏

（５）総 評

今年度の新事業で、多目的ホールで開催した。見たことのない世界の珍しい楽器 30種類以上を前に、演奏や楽器の説明に興味津々で聴き入っておられた。どこの国の何という楽器かということ、歴史や文化などの話を入れながら説明いただいたことで、参加者からは「世界史の勉強にもなった」との声もあり、終了後には熱心に楽器について尋ねる姿も見られた。

重度の障害がある方の参加も多くあり、演奏を聴いてリズムに乗ったり、演奏者に選んでもらった楽器を使い、音色を楽しんだりしておられた。楽器の扱いは、簡単なものから難しいものまであったが、自分で楽器を選ぶこともでき、各々楽しんでいただけた。

参加者からは、「世界観が広がった」「世界の文化をもっと知りたい」等の感想をいただいた。



第 35 回水泳記録会

（１）期 日 平成 31年3月15日（日）

（２）参加人数等 246人

（３）目 的

障害のある人とない人が、水泳の自己記録の向上を目指し、水に親しみ、障害区分を超えて楽しく交流を深めるとともに、健康の増進および社会参加の促進を図る。

（４）内 容

① 第１部：25mに挑戦、水中レクリエーション

② 第２部：自由形・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ（各 25m、50m）、100mフリーリレー

（５）総 評

35回目の水泳記録会には、県内全域と京都府から246人の参加があった。

第1部では、25m完泳を目指して頑張って泳ぐ姿に自然と大きな声援や拍手が沸き起こり、会場が熱くなった。その後の水中レクリエーションでは、プールを広く使用したサーキットや、浮き具をロープで引っ張ってもらい、水面を滑るように進むアトラクションなど様々なレクリエーションを楽しまれた。

第2部では、各競技種目のタイムを計測した。障害のある、ない、老若男女に関わらず、日頃の練習の成果を発揮すべく、力泳する姿が見られた。自己記録を更新し、喜ぶ姿が数多く見られ大いに盛り上がった。また、障害者の世界大会や全国大会に出場した選手も参加され、世界クラスや全国クラスの選手の泳ぎを間近に見られる貴重な機会にもなった。



グラウンドゴルフ大会

(1) 期 日 平成30年5月12日(土)

(2) 参加人数等 51人

(3) 目 的

障害のある人もない人も大会に参加し、交流する中で、日頃の練習の成果を発揮し、健康の増進および社会参加の促進を図る。

(4) 内 容

1グループ6人で全12ホールをまわる。

(5) 総 評

今年は、天候に恵まれ3年ぶりに屋外での開催となった。爽やかな季節に開放感あふれる広々とした会場で、障害のある人もない人も日頃の練習の成果を発揮し、交流を図られた。

順位決定プレーオフでは特設コースを設け参加者全員が見守る中で行われた素晴らしいプレーに、会場は大いに盛り上がった。

また自分のプレーだけではなく、他の参加者のプレーに一喜一憂するなど、和気あいあいとした雰囲気の大大会となった。



スポーツ吹矢大会

(1) 期 日 平成31年3月21日(木・祝)

(2) 参加人数等 73人

(3) 目 的

障害のある人もない人も大会に参加し、交流する中で、日頃の成果を発揮し、健康の増進および社会参加の促進を図る。

(4) 内 容

5m(障害の程度により5m以下も含む)、6m、8mの各部門に分かれて競技を3ラウンド行い、各部門上位3名および特別賞(基本動作賞・迫力賞・パーフェクト賞)該当者を表彰する。

(5) 総 評

県内外の30歳代から80歳代までの幅広い年齢の方々が日頃の練習の成果を発揮するとともに、健康の維持増進や他の参加者との交流を目的に参加された。

参加者は、集中し真剣な面持ちでスポーツ吹矢式呼吸法を行い、離れた的をめがけて一射ずつ力強く矢を吹かれていた。競技開始直後に6mと8mでパーフェクトが出るなど、会場は早々に熱気につつまれた。

今大会では各部門ともに接戦となり、活気に溢れた大会となった。特に8mの部では順位決定プレーオフによる優勝決定戦が、2回戦までもつれ込む熾烈な戦いとなり、大いに盛り上がった。



2. スポーツ・文化教室

スポーツ・文化教室開催状況

	教 室 名	対 象 者	期 間	曜 日	回 数	時 間 帯	定 員	延 受 講 者 数
スポーツ 入門教室	アーチェリー教室(春)	身体障害者(13歳以上・視覚障害者を除く)	4/14～5/19	土	6	10:00～12:00	6人	17人
	アーチェリー教室(秋)	初心者・初級者	10/6～11/24	土	6	10:00～12:00	6人	
	グラウンドゴルフ定例会	身体障害者・精神障害者・障害のない人	4/13～2/8	金	5	13:30～15:30	自由参加	119人
	スポーツ吹矢定例会	身体障害者・精神障害者・障害のない人	5/11～3/8	金	5	13:30～15:30	自由参加	87人
	リズムでダンス教室	知的障害者(中学生以上)	1/19～3/23	土	6	15:00～16:00	20人	232人
	アクアビクス教室	障害のある人・障害のない人	4/28～3/23	土	12	10:45～11:45	自由参加	254人
	アクアエクササイズ教室	身体障害者・精神障害者・障害のない人(36歳以上)	4/14～2/19	土	6	12:00～12:50	10人程度	65人
	※ハッスル(知的)教室	知的障害者(36歳以上)	5/13～1/13	日	5	12:00～12:50	10人程度	54人
	※フライングディスク教室	障害のある人(中学生以上)	1/19～3/23	土	6	13:30～14:30	20人	84人
	※チャレンジボッチャ教室	障害のある人・障害のない人	10/26～3/15	金	6	13:30～15:30	25人程度	66人
	障害者スポーツ指導支援	障害者団体等	通年		54			750人
介護予防	※トータルプログラム教室	身体障害者	5/18～12/7	金	8	12:00～13:00	10人	47人
	セラバンド講習会	①障害のある人 ②障害のない人	4/12～10/11	木	4	13:30～14:30	①7人②3人	41人
	ラジオ体操	障害のある人・障害のない人	通年		毎日	9:25～9:30		2493人
重度障害者 対象教室	水中らくらくアドバイス	重度の肢体障害者とその介助者	通年					3人
ジュニア 対象教室	親子水泳教室	知的障害のある小学生とその親	5/19～7/7	土	8	16:30～17:30	15組	238人
	体の使い方(幼児)教室	知的・発達障害の4・5歳児とその親(身体除く)	7/28～9/1	土	5	9:30～10:30	10組	64人
	体の使い方(ジュニア)教室	知的・発達障害の小学生(身体除く)	7/28～9/1	土	5	11:00～12:00	10人	102人
ステップ アップ 教室	卓球初級教室	障害のある人	4/19～2/21	木	11	10:00～11:30	4人程度	40人
	卓球ラリートタイム	障害のある人・障害のない人	4/19～2/21	木	11	10:00～11:30	16人程度	174人
	水泳初級教室							
	水泳中級教室	障害のある人(中学生以上35歳まで)	9/2～11/11	日	6	16:30～17:30	20人	172人
	水泳上級教室							
	水泳選手育成教室	①障害のある人(小学校6年生以上) ②競技会への出場を希望し、高い意欲で練習会に参加できる人	4/6～3/15	金	43	18:30～20:30	15人程度	1114人
	バスケットボール選手育成教室	草津養護学校区の知的・発達障害のある中学3年生以上で当福祉センターの設定条件を満たす人	4/25～3/9	水土	24	水15:00～16:30 土10:00～12:00	20人程度	348人
個別サポート	水泳個別アドバイス	障害のある人	通年				一日最大3人(組)	78人
	健康・運動個別アドバイス	障害のある人(中学生以上)	通年				一日一人(組)	3人
測定・評価	体力測定・トレーニングアドバイス	身体障害者・精神障害者	10月31日	水	1	13:30～15:30	30人	38人
バック アップ	琵琶湖一周に挑戦	障害のある人・障害のない人	通年					142人
	日本縦断に挑戦	障害のある人・障害のない人	通年					46人
	指導員と泳ごう	その日のプログラムに合う人(初心者から25m泳げる人まで)	通年	金・土 日・祝	11	12:00～12:50		74人
	タイムトライアル	障害のある人・障害のない人	5/6～3/30	土・日	6	16:30～17:45	20人程度	24人
地域支援	地域体の使い方(幼児)教室(湖北・湖西)	知的・発達障害の4・5歳児とその親(身体除く)	11/25～3/3	祝・日	5	9:30～10:30	10組	58人
	地域体の使い方(ジュニア)教室(湖北・湖西)	知的・発達障害の小学生(身体除く)	11/25～3/3	祝・日	5	11:00～12:00	15人	191人
	短期水泳教室 湖北・湖東ジュニア・初級・中級・上級教室	障害のある人(小学生)	11/17～3/16	土	5	9:15～10:15	15人	243人
	短期水泳教室 湖北・湖東 初級・中級・上級教室	障害のある人(中学生以上)				10:30～11:30	20人	
	短期水泳教室 湖西 親子初級・中級教室	知的障害者(小学生)とその親	11/10～3/2	土	5	13:30～15:00	6組	136人
	短期水泳教室 湖西 初級・中級教室	知的障害者(中学生以上)					12人	
	障害者スポーツ体験指導事業	障害のある団体等	通年					928人
文化・教養	パソコン教室	身体障害者・精神障害者(小学校3年生以上)	4/7～4/21	土	3	13:30～15:30	8人	52人
	書道教室	障害のある人(中学生以上)	5/9～11/14	水	6	10:00～12:00	10人	47人
	茶道教室	障害のある人(中学生以上)	5/12～1/12	土	8	13:30～15:30	10人	133人
	※フラワーアレンジメント教室	障害のある人とその介助者	6/3～12/2	日	6	13:30～15:00	12人	109人
	絵画教室	障害のある人(小学校3年生以上)	5/13～12/9	日	7	13:30～15:30	10人	183人
	ガーデニング教室	障害のある人とその介助者	6月23日	土	1	13:30～15:30	18人	32人
	ケーキづくり教室	障害のある人(中学生以上)とその介助者	12月1日	土	1	14:00～17:00	18人	34人
	お正月生け花教室	障害のある人とその介助者	12月23日	日	1	13:30～15:00	15人	25人
	※手作り体験教室	障害のある人とその介助者	6月30日	土	1	13:30～15:30	18人	35人
	将棋と囲碁のつどい	障害のある人・障害のない人	4/22～3/31	日	9	10:00～16:30	15人程度	161人
	地域文化教室	障害のある人とその介助者	通年		7		各15人程度	122人

[注] ※は平成30年度新たに開催した教室

アーチェリー教室

(1) 目 的

アーチェリーを始めてみようとする初心者が、1人で安全に近射(10m)できるまでを習得する。



(2) 内 容

- ① 弓具の扱い方(ストリングの張り方等)
- ② アクセサリーの装着方法
- ③ 射法の基本(マナーから矢取りまで)
- ④ 実射[5m・10m・15m]

(3) 総 評 (受講者等延べ17人)

今年度は、当センター登録クラブ滋賀 HITTOアーチェリークラブ協力のもと、春と秋の二期で開催した。受講者個々に応じた道具の選択や実射への丁寧なアドバイスの結果、受講者全員が 15mの距離の的にほとんど外すことなく射る事ができた。また、受講者全員がアーチェリークラブに登録をされ、継続してアーチェリーを行う機会も作れた。

グラウンドゴルフ定例会

(1) 目 的

障害のある人となない人が共に参加し、グラウンドゴルフを通して楽しく交流を深めるなかで、健康の維持・増進および積極的な社会参加の促進を図る。

(2) 内 容

- ① 1巡目は、8ホールをグループで回る
- ② 2巡目は、団体戦で指定した打数でホールを回るルール設定や通常使わないボールを用いるなど、グラウンドゴルフを使ったレクリエーションを行う
- ③ 最終回にスコア・参加回数等の年間表彰を行い、1年間の総まとめを行う



(3) 総 評 (参加者等延べ119人)

1巡目は通常のラウンド、2巡目はレクリエーション要素を取り入れたラウンドと楽しみ方を変えたことで、初心者から上級者まで幅広く楽しめる場を提供することができた。また、新たにグラウンドゴルフを始める方も増え、参加者同士の交流も盛んに行われた。

継続しての参加者は、欠席も少なく当定例会をきっかけに健康の維持・増進についての意識づけになっていることが伺えた。

スポーツ吹矢定例会

(1) 目 的

障害のある人となない人が共に参加し、お互いがふれあい交流を深めると共に、スポーツ吹矢による基本動作と呼吸法の習得により、健康の維持・増進と積極的な社会参加の促進を図る。



(2) 内 容

- ① 5m、6m、8mまでの距離を体力に応じてそれぞれ選択
- ② 基本動作とスポーツ吹矢式呼吸法の確認習得
- ③ 1ラウンド5本×3ラウンド行う。競技後にスポーツ吹矢を使ったレクリエーションを行う。
- ④ 一般社団法人日本スポーツ吹矢協会公認指導員による指導(3月8日(金))

(3) 総 評 (参加者等延べ87人)

初めてスポーツ吹矢をされる方や、日頃各地域でスポーツ吹矢を楽しまれている方々が参加された。集中して的に狙いを定め、力強く矢を吹く様子や参加者間で教えあい協力する姿が見られるなど、積極的な交流が図られた。

リズムでダンス教室

(1) 目 的

音楽に合わせて楽しく体を動かすことで運動量を確保し、体力の維持向上と社会参加の促進を図る。

(2) 内 容

- ① 音楽に合わせてウォーミングアップ
- ② メイン曲でダンス
- ③ クールダウン: ストレッチ



(3) 総 評 (受講者等延べ232人)

今年度は定員を超える申込があった。教室は音楽に合わせて身体を動かし、楽しむことに重点をおいて実施した。回数を重ねるにつれてメイン曲の振り付けを覚え、最終的には指示がなくても見本を見るだけでスムーズに踊れるようになった。それぞれに独自の動きで踊る姿も見られ、大いに楽しまっている様子が伺えた。アンケートからは「毎回参加することを楽しみにしていた」「家でも録画した動画を見て練習していた」等の声が聞かれた。

アクアビクス教室

(1) 目 的

水中で動くことの楽しさを体験し、体力の維持・増進を目指すとともに、交流を深めることで社会参加の促進を図る。

(2) 内 容

リズムに合わせて基本的な動きを中心とした水中運動を行う。

① ウォーミングアップ:水中ストレッチ

② メインエクササイズ:歩行(前後・左右・ツイスト)、ジャンプ、バランス運動、腕の曲げ伸ばし、スクワット、キック(前後・左右)、スカーリングを使った腹筋運動等

③ クールダウン:水中ストレッチ、リラックス

(3) 総 評 (受講者等延べ 254人)

受講者からは「明るく元気でユニークな先生なので気分が盛り上がり楽しく参加できた」「少しずつでも日々運動する必要があると再認識した」「通うのが楽しみで仕方がない、これからも通い続けていきたい」等の感想をいただいた。教室は毎回活気に満ち笑い声に包まれており、楽しみながら運動をされていた。



アクアエクササイズ教室

(1) 目 的

障害のある人もない人も、水中で動くことの楽しさを体験し、相互にふれあい、交流を深めながら心身ともにリフレッシュすることで、健康づくりのきっかけとする。

(2) 内 容

ウォーミングアップ、水中ストレッチ(水中での体の動かし方等)、プールサイドを利用した水中運動、ボールやヌードル等の浮助具を使った認知症予防の水中レクリエーション、クールダウン

(3) 総 評 (受講者等延べ 65人)

介護予防や認知症予防メニューを多く取り入れ、楽しみながら日頃のリハビリ動作を意識する内容を実施した。「頭の体操で自分の動作の鈍さがわかった」「知らない人とも和気あいあいとできて楽しかった」「アクアエクササイズに参加すると体が軽くなる」等の感想をいただき、健康づくりや受講者同士の交流を深めていただくことができた。



ハッスル（知的）教室

（１）目 的

知的障害のある人が、プールやトレーニング室で楽しみながら無理のない運動を行い健康と体力の維持を図る。

（２）内 容

プール

ラジオ体操・水中歩行・ジャンプ・伏し浮き・板キック・クロール・ストレッチ等
トレーニング室

ラジオ体操・コードレスバイク・腹背筋・レッグカール・レッグエクステンション・開閉脚・ストレッチ

（３）総 評（受講者等延べ54人）

健康の維持・肥満の解消と余暇活動の充実を目的に、毎回楽しみに参加されていた。

今年度から、プールと新たにトレーニング室を活動場所に加え、メニューを増やし楽しく身体を動かした。参加者の中にはトレーニング室を初めて利用した方もおられ、運動のきっかけづくりにもなった。

課題やトレーニングに、それぞれ時間や回数を設定して皆で順に取り組んだ。個々の体力に差はあるが、各々が集中して課題に取り組むことができていた。



フライングディスク教室

（１）目 的

全国障害者スポーツ大会の種目でもあるフライングディスク競技の選手の発掘はもとより裾野を広げることを目的とする。また、余暇活動の一環とする。

（２）内 容

準備体操、ディスクの投げ方など基本動作の確認、競技ルールの確認、ディスクゲッター、アキュラシー競技

（３）総 評（受講者等延べ84人）

年に1回開催していた練習会を今年度より教室にし、1月から3月まで全6回開催した。受講者は、初めてディスクを握る人から、これから県大会に出場しようと思っている人、県大会に出場して良い結果を残したい人など、技術も目的も幅広い対象者が受講された。

繰り返し投げることでアキュラシー競技ではしっかり的を狙うことができるようになった。受講者からは、「フラフラ飛んでいたディスクがまっすぐ遠くへ飛ぶようになった」「大会で練習の成果が発揮できるといいなと思う」等の感想をいただいた。



チャレンジボッチャ教室

(1) 目 的

ボッチャの基本知識およびルール等を理解し、興味を高め楽しんで実践してもらう事で、社会参加の促進を図るとともに、裾野を広げる。

(2) 内 容

ボッチャの基本知識、ルール理解・技術練習・ゲーム

(3) 総 評 (受講者等延べ66人)

今年度から実施した事業で、初心者から経験者まで誰もが気軽にできるスポーツということもあり、たくさんの方に経験していただいた。的玉となる白いジャックボール近くに投球されると拍手や歓声が上がり、大いに盛り上がる場面もあり、楽しく和気あいあいとアドバイスし合いながら、ボッチャの奥深さを体験されていた。受講者からは「いつも家に居るので体を動かして良かった」「教え方・褒め方が上手で上達できて良かった、楽しかった」「優しく教えてくれてボッチャが好きになった」などの感想をいただいた。

2020年東京パラリンピック種目ということもあり、たくさんの方にボッチャを知っていただく機会となった。



(1) 目的

当センターから遠隔地にある団体が行う障害者スポーツやレクリエーション等の事業に対して、当センター指導員が現地へ出向き指導を行い、県民の健康維持・増進、余暇の充実を図るための一助とする。



(2) 内容

① 療育教室

・湖の子園(草津市)

受講者等延べ 204人 全6回

水慣れ、水中での体の使い方、介助方法

・めだかの学校(東近江市) 受講者等延べ114人 全6回

水慣れ、水中での体の使い方、介助方法

・くれよん(日野町)受講者等延べ20人 全2回

水慣れ、水中での体の使い方、介助方法

・にこにこ教室(野洲市) 受講者等延べ73人 全3回

水慣れ、水中での体の使い方、介助方法

運動遊び、体の使い方と家でもできる親子遊びの紹介

② 遠隔地

・湖西地域障害者生活支援センターわになろう(高島市)受講者等延べ195人 全8回
体の動かし方と補強運動・レクリエーション・軽スポーツ

・湖西地域障害者生活支援センターほろん(高島市) 受講者等延べ58人 全7回
水泳・水中歩行・水中でのリラクゼーションと軽スポーツ

③ その他

・県立精神医療センターデイケア『joy(ジョイ)スポ』(精神障害) 全2回、

・県立精神医療センターデイケア『へいおん』発達障害者 全10回

受講者等延べ86人 計12回

基礎的な運動と補強運動、体力測定の実施

(3) 総 評

① 療育教室のプール指導では、水の楽しみ方や体の使い方について個々に対応し、保護者や保育士とやりとりをしながら子どもにあった介助方法を指導した。陸上での運動遊びでは、ハイハイやジャンプ、ケンケンなど全身を使った動きを繰り返し行った後、サーキットコースを作成し、楽しみながら自然に体を使える内容とした。

② 高島市では、当センターの指導を心待ちにしている。指導員は、受講者の顔ぶれを想定して、ルールや使用する道具に工夫をし、一定の運動量が確保できるように指導を行った。また、プールでは個々の目標に応じて個別に指導を行った。

③ 精神医療センターのグループ「へいおん」では、基本的な体の動かし方を中心に、バランスボール等を使って楽しい雰囲気を作りながら指導した。

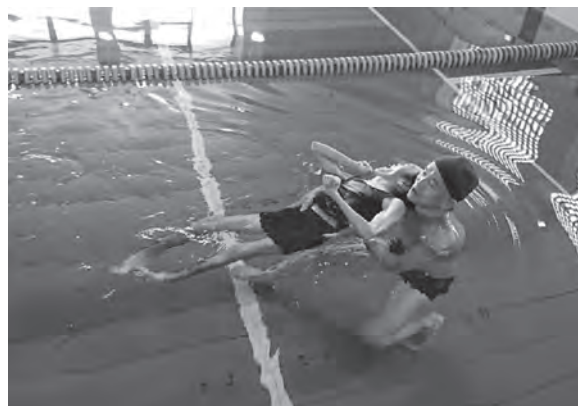
「joy スポ」では、年に2回体力測定を行い評価をすることで、日々の運動による体力の維持、増進に対する意識を高めることができた。

それぞれの支援事業において、高い評価をいただくことができた。

水中らくらくアドバイス

(1) 目 的

身体(肢体)に重度の障害がある人が、水中でリラックスして楽しく体を動かす。介助者は、対象者と自らの負担が少なく、効果的な介助法を身につける。



(2) 内 容

リラクゼーション、個々に応じた介助方法、補助具の有効な使い方等

(3) 総 評 (受講者等延べ3人)

身体(肢体)に重度の障害があり、初めてプールを利用される方や介助方法に悩んでおられる方に、指導員が個々に応じた体の動かし方や介助方法、補助具の使い方などについて、対象者・介助者双方に負担がかからずリラックスできる介助方法等をアドバイスした。

アドバイス後のプール利用時に、身体の状態や動きの変化について確認するなど、声掛けをすることで継続的な利用に繋がり効果的な活動に寄与した。

親子水泳教室

(1) 目 的

障害のある小学生が水に慣れ、親子で水泳を楽しむ中で、集団でのルールを身につけるとともに泳ぎの基本姿勢や集中力を養う。



(2) 内 容

① ラジオ体操

② 腰掛けキック、水浴び、入水

③ 1回目基本練習(全体の課題の中で個々の泳力レベルに対応)

2回目～8回目 全体練習 ウォーミングアップとサーキット(泳力レベル別の課題を取り込んだメニュー)

本練習 泳力レベル別で2クラスに分けて練習

(3) 総 評 (参加者等延べ95組 238人)

受講者15組中5組が初受講。泳力レベル別にクラスを分けたことで個々の課題に丁寧に取り組む高評価を得た。更にクラス内でも差は見られたが、同じ課題内容にして取組み、その中で個々に応じたポイントを指導した。サーキットは、各クラスの泳力に応じた2パターンの内容を示した。受講者本人がコースを選択することで、チャレンジ精神が芽生える場面が見られるなど、レベル以上の事もできた。

体の使い方（幼児）教室

（１）目 的

親子で楽しく体を動かしながら体の使い方を覚える。

（２）内 容

- ①サークルでの運動（親子で座ってスキンシップあそび、座って体ほぐし、ジャンプ、バランス、片足立ち、フープを使用した体伸ばし等）
- ②直線での運動（ハイハイ、高ばい、両足ジャンプ、けんけん、横歩き、ダッシュ等）
- ③サーキット（基本動作を組み合わせたメニュー）



（３）総 評（受講者等延べ64人）

今年度から新たに当センターで知的・発達障害のある4・5歳児を対象に全5回開催した。

細かなことに固執せず、ゆったりと構えた雰囲気の中、集団での活動をすすめた。全体の流れはありながらも一人ひとりのペースを大事にして行った。

保護者からは、「今まで人の真似をするという行為をしなかったが、少しずつ真似してみようかなという気持ちが芽生えた気がする」「ケンケンが出来るようになったり、何気ない運動につながってきている」等の感想をいただいた。

体の使い方（ジュニア）教室

（１）目 的

皆と楽しくさまざまな動きを体験する中で、自然に体の使い方を覚える。

（２）内 容

- ①サークルでの体操（ストレッチ、バランス、補強）
- ②並列での運動（ハイハイ、高ばい、歩行、けんけん、ジャンプ等）
- ②サーキット（フープや牛乳パックを跳ぶ・くぐる、平均台、階段等）



（３）総 評（受講者等延べ102人）

地域で実施している同教室を、当センターで全5回開催した。

初めは、慣れない場所や初めての顔ぶれに戸惑う様子で、動きが消極的だった受講者も、回を重ねることで、次第にダイナミックな動きができるようになった。

また、運動面だけではなく「他の人がしていることを見る」「順番を守る」「我慢をする」等精神的な成長も見られた。

同じ動きを繰り返す行うことで運動面でも確実に上達し、情緒面でも落ち着いて取り組めるようになった。

卓球初級教室

(1) 目 的

卓球の基本技術を身につけ、ラリーができるようになるとともに、スポーツの楽しさを実感する。

(2) 内 容

フォアハンドストロークを中心に、少しでも多く打ち返せるように繰り返し練習する。



(3) 総 評 (受講者等延べ 40人)

ラケットの種類や持ち方の説明から、フォアハンドを中心としたストローク練習までを段階的に指導した。また、サウンドテーブルテニス(視覚障害者卓球)のニーズが増え、技術の向上と共に受講者間の交流も大いに図られていた。指導は、自分とボールとの距離感をつかむことに重点をおいて進めた。練習を重ねるごとにラリーが続くようになり、毎回の教室参加を楽しみにされるようになった。

卓球ラリータイム

(1) 目 的

多くの相手とラリーを行い、交流を深める中で技量を高めていく。

(2) 内 容

6分サイクルで相手を代えてラリーを行う。ワンポイントアドバイスをを行う。

(3) 総 評 (参加者等延べ 174人)

多くの方とラリーを行うことで、受講者全体の技術の向上が見られ、ラリーが長く続くようになった。また、ラリーを行いながら受講者同士の会話がはずみ、目的としている交流にも繋がった。中にはラリータイムを通して更に卓球への関心が強くなる方もおられ、当センターの登録クラブや、卓球サークルへの参加に繋がった。アンケートから、受講者のほとんどの方から内容について「満足している」と回答を得ることができたことから今後更なる振興につなげていきたい。



水泳教室

(1) 目的

障害のある人に目標を設定し、水泳の練習を通じて技術を高め、集団活動の中で社会性を養い、健康の増進と社会参加の促進を図る。

(2) 内容

① 各種目(泳形)・泳力レベル(初級・中級・上級)別に指導

② 泳ぎの基本から泳法(キック・手回しのドリル練習、スイム、スタート・ターン等)



(3) 総評 (受講者等延べ 172人)

初級(4人)、中級(7人)、上級(5人)の3つのクラスに分け、レベルに合った目標を設定して取り組んだ。また各クラス共、個々の課題に対し丁寧に指導をすることで、受講者は大変熱心に取り組まれ各人に上達が見られた。

受講者の中には、自分で教室に合わせた一日の予定を立てたり、自分で水着の準備をしたりする等見通しを持って動くことや、前向きに活動に向き合うなど、水泳の技術以外にも成長が見られた。

水泳選手育成教室

(1) 目的

県障害者スポーツ大会および全国障害者スポーツ大会への出場を目指す新たな選手の発掘・育成を行う。

(2) 内容

定期練習会の実施(毎週 1回)

① 陸上練習(小アリーナ)

準備体操や柔軟運動・体幹を中心とした筋力トレーニング

② 水泳練習(プール)

泳力別グループ指導・泳法練習・スタート練習・ターン練習・飛び込み練習



(3) 総評 (受講者等延べ 1114人)

本教室の目的でもある大会への出場については、受講者16人中15人が県障害者スポーツ大会に出場。その内2人が全国障害者スポーツ大会に出場。また、国際大会へは1人がアジアパラリンピック大会2018で金メダル1個を獲得、1人がINAS2018世界選手権で2個の銀メダルと2個の銅メダルを獲得するなど、大きな成果を出す事が出来た。

バスケットボール選手育成教室

(1) 目 的

2024年に滋賀県で開催される『第24回全国障がい者スポーツ大会』に向けた選手の発掘と育成をはかり、県大会出場を目指す。

(2) 内 容

準備運動：ストレッチ

補強運動：腹筋・もも上げ・ケンケン・両足ジャンプ・ダッシュ・バービージャンプ・

障害物ダッシュ・J P クッションを使った片足立ち・ジャンプなど

基本練習：ボールハンドリング、ドリブル、パスディフェンス練習、シュート練習

応用練習：ランニングシュート、ドリブルシュート、パス&シュート(2人組・3人組)、ドリブルなし(3対2、5対3)、ミニゲーム



(3) 総 評 (受講者等延べ348人)

教室前半に体の使い方を習得するための補強運動を行い、後半では、バスケットボールの基本から実践、ルールの習得までを行った。実践に重きを置き、県大会に出場したところ、男子は1回戦を突破し、女子は愛知高等養護学校との混合チームで出場し優勝することができた。受講者は実力以上の頑張りを見せるなど、精神的にも大きく成長した。

水泳個別アドバイス

(1) 目 的

個別にアドバイスを行うことで、水慣れしていない人から、より上の技術を獲得したい人までそれぞれの泳力に合った入水やリラックス方法または泳法を習得する。

(2) 内 容

個人の目的・希望に応じた指導(歩行、水慣れ、四泳法など)



(3) 総 評 (受講者等延べ78人)

指導員がマンツーマンで30分間指導することが、当センターの人気事業となっている。内容は水慣れから水中歩行、四泳法まで様々で、幅広い年齢や目的の方が受講されており、受講者に合わせた指導が水泳を継続的に行っていただくきっかけになっている。水に慣れ水泳に興味を持たれることが健康の維持増進や社会参加にも繋がっている。

健康・運動個別アドバイス

(1) 目 的

個別にアドバイスを行うことで、運動経験の少ない人が安心して施設利用ができ、それぞれの障害や体力に合った基本的なストレッチのやり方や効果的な運動の方法を習得する。



(2) 内 容

個人の目的・希望に応じた指導

体組成測定による体成分分析(脂肪量や筋肉量等の測定による部位別評価)

(3) 総 評 (受講者等延べ3人)

個々のニーズに応じた指導を45分間マンツーマンで行った。体組成測定により自分の筋肉量や体脂肪量等、体の状態を理解していただく事で、ストレッチや運動方法の参考となり、健康に対する意識を高めていただくことができた。

また、バランスボールやセラバンドの使い方を理解してもらうなど、身近な道具で安全に無理の無いトレーニングもマスターしていただいた。これをきっかけにしてトレーニング室の継続的な利用に繋がっている。

体力測定&トレーニングアドバイス

(1) 目 的

自己の体力の現状を客観的に把握することにより、普段の運動の効果を確認するとともに、専門的なアドバイスにより適切な運動方法を習慣化し、体力の維持、健康の増進および生活の質の向上を図る。



(2) 内 容

① 身長、体重、血圧、肺活量、握力、長座体前屈、ファンクショナルリーチ、開眼片足立ち、

10M最大歩行、タイムドアップ&ゴーテスト、大腿周囲・下腿周囲の測定

② 理学療法士からのトレーニングアドバイスおよび管理栄養士からの栄養指導

(3) 総 評 (受講者等延べ38人)

今年度から取り組んだ管理栄養士による食習慣についてのアドバイスに、受講者は熱心に耳を傾けていた。また、測定後の結果に日頃のリハビリ効果を確認しながら理学療法士による個別のアドバイスを受けていただいた。「運動だけでなく、食事のバランスの必要性が良くわかった」「継続して運動を続けることの大切さが理解できた」など、日々の運動習慣や食事の習慣を見直す良いきっかけとなった。

琵琶湖一周に挑戦

(1) 目 的

水泳と水中歩行に一定の目標を持ち挑戦することにより、体力増進と社会参加の促進を図る。

(2) 内 容

- ① 琵琶湖一周 = JR換算距離 178kmとする。
- ② 泳いだ距離または歩いた距離を、個人カードに記入する。
- ③ 毎月のトータル距離を翌月の月初めに集計し、結果を掲示する。
- ④ 達成回数に応じて記念品、メダルまたは達成証を贈呈し、年間 50 回以上挑戦された方には記録証を授与する。
- ⑤ 参加者全員に 1 年間の個人カードを記録冊子にして交付する。

(3) 総 評 (参加者〈平成 30年 12月現在〉142人 表彰対象者 39人)

「一周する」という大きな目標と、区切りとなる表彰がプールの継続利用に繋がっている。また、記録を申告する際に、記録や取り組みについて話したりと、参加者と職員のコミュニケーションを図る機会になっている。



日本縦断に挑戦

(1) 目 的

エアロバイクやトレッドミル等での運動に一定の目標を持ち挑戦することにより、体力増進と社会参加の促進を図る。

(2) 内 容

- ① 日本縦断は、北海道から沖縄までの鉄道・新幹線・飛行機を組み合わせた換算距離 3,418kmとする。
- ② エアロバイクまたはトレッドミルで進んだ距離を個人カードに記入する。
- ③ 毎月のトータル距離を翌月の月初めに集計し、結果を掲示する。
- ④ 達成回数に応じて記念品、メダルまたは達成証を贈呈し、年間50回以上挑戦された方には記録証を授与する。
- ⑤ 参加者全員に 1 年間の個人カードを記録冊子にして交付する。

(3) 総 評 (参加者〈平成 30年 12月現在〉46人 表彰対象者数 17人)

参加者は、日本縦断を目標のひとつにトレーニングをされていたり、新たにトレーニング室を利用される参加者には、目標をもってトレーニングを続けるきっかけとなっている。また、授与式では参加者同士で称えあう場面も見られるなど、交流を深められていた。



指導員と泳ごう

(1) 目的

指導員と楽しく泳ぎながら実施種目に
応じた技術を高める。

(2) 内容

その日の実施種目を、一緒に泳ぎなが
ら指導を行う。(実施種目・担当指導員は、
館内に掲示する。

指導内容：立ち方、伏し浮き、キック・
スイム・手の回し方等



(3) 総 評 (受講者等延べ74人)

当日の実施種目(背泳ぎ・平泳ぎ・クロール・初級)に応じて、泳法指導を行った。
受講者は、障害のある、ないや年齢に関わらず多くの方が受講されている。

指導としては個々の課題に応じて、水慣れや技術向上に繋がるように努めた。ま
た、日々の利用の中で練習されている様子を確認し、次に繋がるようなポイントも
アドバイスした。

タイムトライアル

(1) 目的

スタート練習とタイムの測定をするこ
とで、大会に向けての調整に役立てる。

(2) 内容

- ① ウォーミングアップ
- ② 飛び込み練習(ワンポイントアドバイス)
- ③ タイム測定



(3) 総 評 (受講者等延べ24人)

参加者は、県内だけにとどまらず京都府や東京都等遠方からの参加もあった。
事業開催時間の75分のうち前半の30分をウォーミングアップ・飛び込み練習(ワン
ポイントアドバイス)にあて、残りの時間をタイム測定とし、練習の成果を確認
する場として実施した。

日頃のプール利用ではできない飛び込み練習ができる貴重な機会として、大変
好評であった。また、タイム測定は、個々のタイムを意識することに繋がり泳力
の向上も見られた。

トータルプログラム教室

(1) 目 的

トレーニング、プール活動、レクリエーションと様々なプログラムを実施する事で、運動の方法、効果を知り、運動する楽しさを実感し、日々のトレーニング、健康の維持増進および社会参加の促進へつなげる。

(2) 内 容

- ・トレーニング方法(有酸素運動・筋力トレーニング)
- ・プール活動(歩行、水中運動、泳法)
- ・各種スポーツ(ボッチャ、グラウンドゴルフ、スポーツ吹矢)
- ・バランスボールエクササイズ



(3) 総 評 (受講者等延べ47人)

今年度からの新規教室で、当センター施設の有効的な利用や、教室への参加につなぐため開催した。トレーニング室の機器の正しい使い方によって得られるトレーニング効果や、プールでは水中歩行のポイントや泳法等、他にも様々なスポーツを体験して学んでいただいた。受講後、学んだことを意識しながらトレーニングを実践する姿が見られた。

セラバンド講習会

(1) 目 的

セラバンドの正しい使い方を学ぶことで介護を必要とせず生活していける筋力を身につける。

(2) 内 容

準備運動(足ふみ運動、ゆっくりから早く)
ストレッチ(下半身、上半身)
セラバンドトレーニング
セルフマッサージ



(3) 総 評 (受講者等延べ41人)

ゴムのバンドを用いて、安全に無理なく全身の筋力を向上させることができる運動で、講習後受講者の中から「続けて行いたい」との声が上がり、セラバンドサークルが誕生した。サークルは月一回の活動で、メンバーは当初の10人から18人に増加し、「これからも継続していきたい」との声も出ていた。当センター事業から自主活動に発展する等熱心に取り組まれており、継続的な運動の良いきっかけづくりになった。

ラジオ体操

(1) 目的

障害のある人もない人も、安全に運動を続け、自ら健康な生活を維持するため、体をまんべんなく動かすラジオ体操を行い、運動時の怪我を予防するとともに、継続的な健康の維持増進を図る。

(2) 内容

ラジオ体操第一

(3) 総 評（参加者人数等延べ 2,493人）

年間を通して朝の受付開始前に、多目的ホール付近で実施した。ラジオ体操の開始時間に合わせて来所される方や、早めに来所し多目的ホールで待っている方がおられるなど、当センター利用者に定着させることができた。また、障害のある、ないや性別、年齢に関らず、各自が運動前にラジオ体操をすることで全身をほぐし、怪我の予防意識を高めていただくことができた。個人利用者はもちろん、団体利用者や当センターで開催される大会の参加者など、年間を通して多くの方に参加いただくことができた。



地域体の使い方教室（幼児）湖北・湖西

(1) 目的

当センターに通えない遠隔地の障害者に対して、当センターで開催している教室を県内各地で開催することにより、学習機会の提供を図り、サービス提供の均一化の一助とする。

(2) 内容

- ① サークルでの運動（親子で座ってスキップあそび、体ほぐし、ジャンプ、バランス、フープ、片足立ちなど）
- ② 直線での運動（ハイハイ、高ばい、両足ジャンプ、けんけん、かえる跳び、ダッシュ横歩き等）
- ③ サーキット（基本運動と平均台や跳び箱を使ったメニュー）

(3) 総 評（受講者等延べ 58人）

長浜バイオ大学ドームを会場に、長浜・新旭養護学校区の知的・発達障害のある4・5歳児を対象に開催した。初めての場所で、最初は戸惑っていた受講者も、指導員がゆったりと関わり、一人ひとりのペースで行ったことで、安心し少しずつ表情もほぐれ、小さな動きが徐々に自信を持ってダイナミックな動きができるようになった。できなかった動きができるようになる受講者もいた。それぞれのペースで、無理なく成果を得てもらうことができた。



地域体の使い方教室（ジュニア） 湖北・湖西

（１）目 的

当センターに通えない遠隔地の障害者に対して、当センターで、開催している教室を県内各地で開催することにより、学習機会の提供を図り、サービス提供の均一化の一助とする。



（２）内 容

- ① サークルでの体操(ストレッチ、補強)
- ② 並列での運動(ハイハイ、高ばい、ジャンプ、けんけん等)
- ③ サーキット(フープや牛乳パックを跳ぶ・くぐる、ブロック等でコース設定)

（３）総 評（受講者等延べ 191人）

初めは、自分ができないことや苦手なことがあると課題に向き合えなかった受講者も、皆の動きを見ながら見通しを持ち、我慢し、挑戦できるようになった。保護者も、教室の内容を指導者に質問したり、家で一緒に練習する等熱心に取り組まれた。

同じ動きを繰り返し練習することで運動面でも確実に上達し、情緒面でも落ち着いて取り組めるようになった。

短期水泳教室 湖北・湖東

（１）目 的

当センターに通えない遠隔地の障害者に対して、当センターで開催している教室を県内各地で開催することにより、学習機会の提供を図り、サービス提供の均一化の一助とする。

（２）場 所

甲良町保健福祉センター温水プール

（３）内 容

泳力等に応じて、小学生の部・中学生以上の部ともに、クラス別に指導。

●水慣れ・泳げるクラスに分けて指導(小学生の障害者の部)

水慣れ・水中姿勢・呼吸法・け伸び・背浮き・バタ足・板キック・クロール

●泳力に応じクラス別に指導(中学生以上の障害者の部)

水慣れ・水中姿勢・呼吸法・け伸び・背浮き・板キック・クロール・背泳ぎ



（４）総 評（受講者等延べ 243人）

小学生の部は低学年で水底に足がつかない受講者が多く、水に慣れる事に重点をおいて指導した。

中学生以上の部では、前半に行う集団での取り組みの中で運動量を確保しつつ、水慣れ、基本姿勢等の練習を行った。

小学生の部では、各々目標とされている水準に達することができない人もあったが、最終的には受講者全員が技術的にも、取り組む姿勢でも大きく成長することができた。

(1) 目 的

当センターに通えない遠隔地の障害者に対して、当センターで開催している教室を県内各地で開催することにより、学習機会の提供を図り、サービス提供の均一化の一助とする。

(2) 場 所

高島市 B&G温水プール

今 津 B&G温水プール

(3) 内 容

●親子初級・中級教室

(小学生の知的障害者とその親の部)

水慣れ・基本姿勢・呼吸法・け伸び・クロール・背泳ぎ等

●初級・中級教室(中学生以上の知的障害者の部)

基本姿勢・呼吸法・け伸び・クロール・背泳ぎ等

(4) 総 評 (受講者等延べ136人)

集団で行うことで、お互いが刺激となり相乗効果が得られ自信に繋がった。また、集団の活動でも一人ひとり丁寧に関りを持ったことで、技術面でも大きな成果がみられた。

アンケートでは「僕、水泳習ってるんだよ。少し泳げるようになったよ！と自分から友達に話しかける姿がみられるようになった」「スイミングの日が近づくと、何度もスイミングいつ？と聞いてきて、毎回楽しみにしている」「当初は顔がつけられないながらも、プールでの活動が好きで楽しみにしていた。最終日には潜れるようになり、成長もみられた」等の感想をいただいた。



障害者スポーツ体験指導事業

(1) 目的

障害者団体からの要請に応じて、現地への職員派遣も含めて広く事業展開し、障害者の自立と社会参加の一層の促進を図る。

(2) 内容

実施日	依頼先	内容	人数
平成30年 5月16日	滋賀県立草津養護学校	卓球	24 人
5月17日	滋賀県立草津養護学校	フライングディスク	21 人
5月18日	滋賀県立草津養護学校	フライングディスク	22 人
5月18日	テクノカレッジ草津	体力測定、レクリエーション	11 人
6月19日	近江八幡市立桐原小学校	フライングディスク ストラックアウト	42 人
6月29日	滋賀大学	事業概要	2 人
8月 3日	高島市サマーホリデー	レクリエーション	26 人
8月 4日	遊★V I V A	水泳	32 人
8月 9日	大地（（社福）虹の会）	水泳	21 人
8月24日	湖北地域障害者支援センター	軽スポーツ	14 人
9月28日	のびのび会	レクリエーション	21 人
10月 7日	大津市更生会	カローリング	93 人
11月22日	旧長浜市支援学級交流会	フライングディスク カローリング	132 人
11月28日	福井県若狭町教育委員会	施設概要、事業概要	4 人
11月28日	京都市伏見区淀南民生児童委員協議会	施設概要、事業概要	10 人
12月 9日	土山町障害者ふれあい大会	ボッチャ、スポーツ吹矢	240 人
12月13日	近江八幡市民生委員	施設概要、事業概要	40 人
平成31年 2月 1日	びわこ学院大学	施設概要、事業概要	1 人
2月10日	積み木スイミング	水泳	42 人
2月11日	ミラクルスターズ	トレーニング	15 人
3月 3日	全国パーキンソン病友の会滋賀県支部	ふうせんバレーボール	101 人
3月17日	大津ホリデースクール	ボッチャ	14 人
計 22 件			928 人

パソコン教室

(1) 目的

障害のある人がITの導入口としてスキルの向上を図り、IT利用促進の一助とし、参加者同士の親睦と交流を図る。

(2) 内容

Word(ワード)の機能を使ってワード絵を学ぶ。

- ① ワード絵の説明
- ② ワード機能の復習
- ③ ワード絵の実践



(3) 総評 (受講者等延べ52人)

パソコン教室を開催して3年目となる今年度は、「ワード絵」を学ぶ教室を開催した。エクセルやワードではなく「絵を描く」という違った切り口にしたことで、新規受講者の獲得に繋がった。

教室では、アシスタントや補助員の協力もあり手厚く対応ができた結果、楽しくパソコンに接することができ、受講者の満足度も高く、「もっと勉強して、パソコン検定を受けてみたい」という前向きな意見も聞かれた。

書道教室

(1) 目的

障害のある人が書の教室に参加して、楽しみながら作品制作を通して自らを表現するとともに、作品を発表することで、積極的な社会参加の促進を図る。

(2) 内容

- ① 本日の課題の提案
- ② 講師が見本を示しながら説明を行う
- ③ 大筆を使って作品を制作する
- ④ 講師にアドバイスを受ける
- ⑤ 通常は全紙の個人作品、障害者週間には全紙3枚分の大きな「筆伝」作品を展示する



(3) 総評 (受講者等延べ47人)

全員が継続の受講者で、教室の流れもわかっており、前年度からの続きのような感じで進めることができた。大筆を使うことで日常では体験できないことができる反面、興味のある人に偏りができた。次年度以降は、もっと多くの人が気軽に受講できる方向にシフトできるか検討していきたい。

茶道教室

(1) 目 的

障害のある人が茶道教室に参加して、基本を身につけ、茶道を楽しみ情操を豊かにするとともに、参加者同士の交流と社会参加の促進を図る。



(2) 内 容

- ① 稽古に必要な諸道具の名前を覚える
- ② お菓子のいただき方と運び方の練習
- ③ お茶のいただき方と運び方の練習
- ④ 割稽古(帛紗さばき、棗・茶杓・茶碗の清め方、茶筌通しの仕方等)
- ⑤ 個々の能力に応じたお点前を学び、通してできるように練習を行う

(3) 総 評 (受講者等延べ 133人)

受講者は、多くが教養・技術の向上と余暇活動の充実を目的とされており、月に1度の教室でいろいろな事を得ようと真剣にまた積極的に取り組まれている。

個々のレベルに合ったお点前を講師から丁寧に学ぶことで充実した時間を過ごすことができ、受講者の満足度が高かった。

フラワーアレンジメント教室

(1) 目 的

障害のある人がフラワーアレンジメント教室に参加し、お花に親しみ、楽しみながらフラワーアレンジメントを学び、情操を豊かにするとともに参加者同士の交流と社会参加の促進を図る。



(2) 内 容

第1回目：トピアリー

第2回目：七夕のアレンジ

第4回目：ハロウィンアレンジ

第6回目：クリスマスリース

第3回目：ハーバリウムアレンジ

第5回目：秋をイメージしたアレンジ

(3) 総 評 (受講者等延べ 109人)

今年度から新たな講師を迎え開講した。12人定員のところ16人もの応募があり、以前に引き続き人気が高い教室である。

生花のアレンジだけではなく、ハーバリウムやリースをつくるなど、いろんなアレンジが出来上がる喜びを楽しんでいただいた。

絵画教室

(1) 目 的

障害のある人が 気軽に参加できて、自由に表現できる場を提供し、文化活動の振興の一助とする。

(2) 内 容

- ① 本日のテーマの発表と説明
- ② テーマにそって自分の作品を制作する
- ③ 仕上がった作品を他の受講者の前で発表する
- ④ 作品を展示する

(3) 総 評 (受講者等延べ 183人)

前年度から開講して2年目となる教室で、受講者13人中11人が新規受講者、また8歳から18歳までの受講者が約8割を占め、フレッシュな顔ぶれとなった。

教室は、画用紙に向き合うだけではなく、うちわに描いたり、アクリル絵具をつかってカバンを作るなど、バラエティーに富んだ楽しいテーマで行った。

教室で作品を作り上げること、みんなの前で発表すること、展示された作品を家族を含め多くの人に見てもらうこと等を通して、それらは受講者の自信となり、より積極的に取り組むことに繋がった。



ガーデニング教室

(1) 目 的

季節折々の植物を使って、楽しみながら寄せ植えをし、その出来栄を愛で、情操を豊かにするとともに、参加者同士の親睦と交流および社会参加の促進を図る。

(2) 内 容

観葉植物を使って初夏の寄せ植えを作る

- ① 使用する植物の説明
- ② 講師が手順等を説明しながら見本作製する
- ③ 講師の見本を見ながら、それを手本に受講者も自分の寄せ植えを作製する
- ④ 質疑応答

(3) 総 評 (受講者等延べ 32人)

1年に1回開催しており女性に人気の高い教室だが、今年度は新規受講者に3人の男性を加え、活気ある教室となった。

前回のアンケート結果を活かし、今回使用した観葉植物の扱い方だけではなく、前年度に作った寄せ植えを準備して季節が終わった後の手入れ方法も併せて学んでいただいた。説明もわかりやすく、とても参考になったと好評であった。



ケーキづくり教室

(1) 目 的

障害のある人とその介助者がケーキづくり教室に参加して、楽しみながら季節感あふれるケーキをつくり、受講者同士の親睦と交流および社会参加の促進を図る。

(2) 内 容

テイクアウトケーキ&おしゃれカフェ

① チェリー☆ベリーケーキ(直径約12cm丸形1台)の作成(持ち帰り用)

② パンケーキキャラメルバナナ添えと紅茶を食しながらの交流

(3) 総 評 (受講者等 34 人)

前年度に引き続き約4割の方が初めての受講者で、男性受講者も7人と多くの申し込みをいただいた。

近年は、ケーキの難易度が上がっており、1ホールを仕上げるのが優先される傾向にあったため、今年度は親睦に重きをおき、パンケーキと紅茶を食しながら自己紹介を交えての交流の時間を設けた。受講者からも「皆さんと交流しながら楽しくできた」と好評で、できたケーキを抱え、全員笑顔で帰っていただくことができた。



お正月生け花教室

(1) 目 的

障害のある人が生け花教室に参加して、季節折々の花を愛で楽しみながら、花を生け、情操を豊かにし、教養を高めるとともに、受講者同士の交流と社会参加への促進を図る。

(2) 内 容

① 花材等の全般の説明

② 講師が見本を生けながら説明を行う

③ 講師の手本に倣いながら生ける

④ 生け終わった作品を講師に見ていただき、アドバイスを受ける

⑤ 質疑応答

(3) 総 評 (受講者等延べ 25人)

前年度の生け花教室(全5回)から形をかえ、1日の単発教室とした。「お正月の花を生ける」という趣旨が明確でイメージしやすく、受付初日で、定員の半数を超える申し込みがあった。受講者のアンケートからは、「お正月用の立派な作品ができてよかった」「新年を気持ちよく迎えられる」との声をいただいた。



手作り体験教室

(1) 目 的

LEDのあかりの仕組みを学びながら、世界に一つだけの自分の作品制作をするとともに、受講者同士の積極的な親睦と交流の推進を図る。

(2) 内 容

オリジナルランプをつくる

- ① LEDの基礎知識の習得
- ② オリジナルランプをつくる
- ③ 質疑応答

(3) 総 評（受講者等延べ 35人）

文化教室としては初めての試みとして、企業(パナソニック(株)エコソリューションズ社)の協力のもと、教室を開催した。

教室は、受付開始 3日目で定員満了となるほど受講を楽しみにされている方が多く、受講後も自分だけの素敵なランプができたこと、教材費以上の作品ができたことに満足度が非常に高かった。協力企業とのつながりを大切に、今後も形を変えて開催できるようにしていきたい。



将棋と囲碁のつどい

(1) 目 的

障害のある人となない人が共に参加し、お互いが触れあい交流を深めるとともに、親睦を図り、棋力の向上と積極的な社会参加を促進する。

(2) 内 容

将棋・囲碁の自由対局

(3) 総 評（参加者等延べ 161人）

将棋・囲碁それぞれの愛好者同士が、月に一回当センターでの対局を楽しみにされている。今年度は新規に18人の参加があり、本つどいで知り合いになった方と対局をするなど、参加者同士の交流が図れた。

小学生から年配の方まで段級位関係なく向き合い、お互いにアドバイスをし合ったり、時には笑い声が聞えてくる等、和気あいあいとした雰囲気がある一面、対局中は真剣に打ち、また対局を観戦しながら勉強される姿も見られ、個々のレベルアップに繋がる機会であることを伺わせた。



地域文化教室

(1) 目 的

当センターにおいて開催している文化教室を、遠隔地の障害のある方に対し、在住地近隣で開催することにより、県民サービスの均一化を図るとともに、参加者同士の交流と社会参加を促進する。



(2) 内 容

① プリザーブドフラワーアレンジメント教室

湖南福祉圏域(栗東ウィングプラザ)

湖西福祉圏域(湖西総合在宅サービスセンターほろん)

② アートフラワーアレンジメント教室 湖東福祉圏域(滋賀県立視覚障害者センター)

③ 手作り教室

(型抜きアート) 甲賀福祉圏域(生活支援センターあかつき)

(かんたん押絵) 大津福祉圏域(大津市立障害者福祉センター)

湖北福祉圏域(長浜市保健センターびわ分室)

④ 料理教室 東近江福祉圏域(近江八幡市総合福祉センターひまわり館)

(3) 総 評 (受講者等延べ122人)

滋賀県下7福祉圏域に出向いて文化教室を開催し、様々な地域、様々な障害のある人に受講していただき、サービスの均一化に努めるとともに交流を深めた。

3. 更生相談事業

医療相談

(1) 目的

障害がある人に医療の専門的な立場から、障害の状態に応じた指導・助言を行い、障害者の健康管理、機能回復および体力の維持向上および社会参加の促進を図る。

(2) 内容

① 対象者

障害者手帳を所有する人、または当センターの利用者カードを所有している人で機能の維持や回復を望む人

② 相談日時

原則として毎月1回、第2または第3水曜日 午後2時30分～4時30分（4枠）

③ 実施内容

(ア) 予備調査

- ・相談内容の把握(申込用紙)
- ・問診による各種チェック(障害内容、既往歴、現病歴、健康状態など)
- ・相談項目、日時の決定およびスタッフへの連絡調整

(イ) 健康状態の把握

身長、体重、血圧、心拍数、握力の測定および問診

(ウ) 医療相談

- ・医師による各疾患相談、訓練内容の指導
- ・理学療法士による機能回復訓練の実技指導や日常生活での留意点などの指導

④ 相談内容

主な相談として

- (ア) 日常生活におけるリハビリについて
- (イ) 筋力の増強方法について
- (ウ) 具体的なりハビリ方法について
- (エ) 減量の方法について
- (オ) 運動実施時の留意点

⑤ 担当スタッフ

医 師 琴浦 良彦 氏(整形外科)
理学療法士 小嶋 高広 氏・井上 卓也 氏
当センター指導員、看護師



(3) 総 評（相談者等 55人）

相談者は、日頃から感じておられる身体の不調や日常生活における悩み、主治医に聞きづらい病気のことなどについて医師から詳しいアドバイスを受けておられた。その後、運動時や日常での注意事項、具体的なりハビリの方法を理学療法士から指導を受けられた。

相談者は今年度、特に脳血管障害の方が多く、次いで股・膝関節障害の方が多かった。相談後は、転倒予防にも繋がり、関節への負担が少なくリハビリに効果的であることから、アドバイスタিম水中歩行に参加して、プールでの運動に積極的に取り組まれていた。

理学療法士によるリハビリ相談

(1) 目 的

理学療法士の立場から、障害の状態に応じたりハビリの指導・助言を行うことで、障害のある人の継続的なリハビリおよび自らがリハビリに取り組めるきっかけ作りとする。

(2) 内 容

- ①リハビリ実施状況の確認
- ②リハビリ内容の相談について
- ③リハビリの指導
- ④日常生活、運動についてのアドバイス
- ⑤福祉用具、補装具等自助具についてのアドバイス



(3) 総 評（相談者等 23人）

医療相談と連携していることもあり、相談者は脳血管障害の方が多く、日々のリハビリ内容の確認や悩み事などについての相談があった。

一度のリハビリ相談では問題解決できない方については、数回または定期的な相談を受け付け、理学療法士による指導を受けることで、相談者のリハビリ意欲を無くすことなく結果的にリハビリを継続することに繋がった。

個々の相談により相談者は、理学療法士による個別のメニューや日常生活での注意事項などの指導を受けて、リハビリ内容を再確認していただくことができた。

アドバイスタイム水中歩行

(1) 目 的

水の特性を利用した水中での歩行や運動を通して、リハビリテーションの効果を高めるとともに、体力の増進と社会参加の促進を図る。

(2) 内 容

- ①指導員による水中歩行を中心とした、リラクゼーションの方法をアドバイス
- ②看護師による問診およびメディカルチェック
- ③理学療法士による水中でのアドバイス



(3) 総 評（受講者等延べ 398人）

水の特性を活かしたアドバイスタイム水中歩行は、股関節・膝関節障害の人に効果的であり継続して受講している方が多かった。

参加者からは、「腰の痛みが軽減した」「筋力がついてきた。体が動きやすくなった」「歩行姿勢が安定した」などの声をいただき、水中歩行の効果を実感していただけた。理学療法士による丁寧な指導は、毎回受講者から好評で、日々のリハビリへの意欲の維持・向上に繋がった。

(1) 目的

自宅で過ごすことが多いパーキンソン病の人同志に、リハビリに関する指導、助言を行い、機能の維持やこころの健康の維持・向上および交流の機会と社会参加の促進を図る。

(2) 内容

医師、理学療法士、看護師、体育指導員等による、体力測定、レクリエーション、医療講演・相談等

(3) 連携機関

県立総合病院、県立リハビリテーションセンター、県障害福祉課、若草診療所、近江温泉病院

(4) 推進会議 年2回実施

推進小委員会 年2回実施

(5) 総 評 (受講者等延べ 346人)

受講者は、自宅では「動きづらさ」を感じる機会が少ないが、月1回の教室では「動きづらさ」を実感し、身体をほぐすと「動きが良くなる」ことを再確認したことで、運動の再開や継続に繋がるようになった。また、今年度はオープン参加型プログラム（医療講演・音楽療法・言語療法）を各保健所等の協力を得て周知したことで、多くの人が受講され当教室や当センターを知っていただく良い機会となった。

また、受講者の有志で構成された「スマイル会」も今年で4年目になり、昨年に引き続き、これまでの活動実績を教室時に報告できた。



地域支援 楽しく笑顔でリハビリ

(1) 目的

地域において、パーキンソン病の人に障害やリハビリ等に関する専門的な指導、助言を行い、健康管理、機能回復、体力の維持向上および社会参加の促進を図る。

(2) 内容

スポーツ吹矢・ふうせんバレーボール・ストレッチ体操など

①湖北圏域(長浜) 2回

②東近江圏域(東近江保健所) 1回

③甲賀圏域(甲賀保健所) 3回

④高島圏域(高島保健所) 3回

⑤湖東圏域(彦根保健所) 2回

(3) 総 評 (受講者延べ 175人)

地域での開催を進めて6年目になり、県内5カ所の圏域での開催が定着してきた。

受講者は頭を使うボッチャや全員で協力しながらできるふうせんバレーボールの体験をしたことで、参加者同士も和やかな雰囲気の中で運動をすることができた。また、運動という機会を通して同じ病気の者同士の交流が図りやすく、運動の楽しさ、大切さを知っていただく良い機会となった。



4. 養成・研修事業

ボランティア養成講座

(1) 期 日 平成 31年 3月 24日(日)

(2) 参加人数等 23人

(3) 目 的

平成31年度滋賀県立障害者福祉センターが主催する事業・教室の運営を円滑に進めていくため、ボランティア養成講座を開催し、ボランティアとしての知識・技能を学ぶことを目的とする。

(4) 内 容

① 教室で行っている準備体操
トレーニングの体験

② フライングディスク、スポーツ吹矢、ボッチャ体験と準備、後片付け

③ 登録申請等

(5) 総 評

各教室の内容を体験することで、楽しさや難しさを実感し、「協力時の対応」を学んでいただくことができた。

(6) 平成 30年度 ボランティア登録状況

登録者数 100人(更新者 75人・新規者 25人)



障害者スポーツ指導者研修会

(1) 期 日 平成 31年 3月 21日(木・祝)

(2) 参加人数等 21人

(3) 目 的

当センターで実践している障害の特性に応じた指導方法を紹介することで、一人でも多くの障害者がより身近な地域においてレクリエーションやスポーツを楽しむ機会を増やすことに寄与する。

(4) 内 容

－講義－障害に応じたスポーツへの導入

教室の目的を①体を動かすことの楽しさを感じる②集団活動による効果を得る③ルールを理解し競技を楽しむ④「大会出場」を目指した練習を行うに設定し、各目的に合った進め方についての講義を行った。

－実技－誰でもできる簡単トレーニング

座位や立位で障害、年齢に関係なく行えるトレーニングの紹介

(5) 協 力 (公財)滋賀県スポーツ協会 滋賀県広域スポーツセンター

(6) 総 評

現在、地域で指導をされているもしくは、次年度に地域での大きな事業を控えている方々が参加された。指導対応や実技内容では、迷っておられた事へのヒントとなり、「持ち帰ってすぐに役立てる内容だった」との感想を得られた。



5. 広報・啓発事業

広報・啓発

(1) 目的

障害者団体をはじめ、行政機関、施設利用者ならびに施設見学者等に対し、当センターの概要や事業内容等について周知を図る。

(2) 内容

①印刷物

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| ・「センターだより」年4回各8,500部 | ・「平成29年度年報」200冊 |
| ・「事業案内ポスター」B2・300枚 | ・「事業案内チラシ」A4・13,000枚 |
| ・「利用カレンダー」ポケットサイズ4,000枚 | ・「点字版 利用カレンダー」20部 |
| ・「点字版 事業案内チラシ」20部 | ・「点字版 利用者アンケート」20部 |

②広 報

行事、教室等のお知らせや受講者の募集を広く県民等に周知するため、県・市町広報誌、各新聞紙面等に登載依頼をした。また、当センターの概要等をインターネットにより周知した。

③情報提供

来所者のふれあいの場(ラウンジ)に月刊誌や季刊誌等を常備し、福祉情報等を提供した。また館内はWi-Fi環境を整備し、情報入手の利便性を高めた。

④広 聴

事業ごとにアンケート等を取り、広く意見を求めた。

⑤渉外活動

県内関係機関へ出向き、作成したチラシを配布し、周知を図った。

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| ・滋賀県庁障害福祉課、スポーツ局、国スポ／全スポ準備室 | |
| ・県内保健所(7か所) | ・滋賀県立リハビリテーションセンター |
| ・滋賀県立小児保健医療センター | ・滋賀県立精神医療センター |
| ・特別支援学校(16学校) | ・県内市町障害福祉担当課(19市町) |
| ・県内市町支所障害福祉担当課 | ・県内市町社会福祉協議会 |
| ・県内市町療育センター | ・県内市町教育委員会(19市町) |
| ・滋賀県障害者スポーツ協会 | ・滋賀県立視覚障害者センター |
| ・滋賀県体育施設協会 | ・彦根児童家庭相談センター |
| ・草津市立障害者福祉センター | ・大津市立障害者福祉センター 等 |

6. 自主事業

(1) 目 的

障害者福祉センターの設置目的に合致し、かつ管理業務の実施を妨げない範囲において障害者スポーツの振興と健康増進を図る。

(2) 内 容

①個別サポート

事 業 名	期 間	延受講者数
水泳個別アドバイス	通年	1 人
健康運動個別アドバイス	通年	0 人

②バックアップ教室

事 業 名	回 数	延受講者数
タイムトライアル	4 回	50 人

③地域支援 障害者スポーツ福祉体験指導事業

実 施 日	依 頼 先	内 容	人数
平成30年 5月27日	大津市国体推進課	障害者スポーツ	36 人
5月29日	びわこ成蹊スポーツ大学	障害者スポーツの地域における実際	13 人
5月30日	草津市立発達支援センター 湖の子園	介助方法と水泳指導の基本	16 人
7月31日	愛荘町社会福祉協議会	ボッチャ	27 人
10月 2日	全国市町村国際文化研究所	パラスポーツの理解と地域活性化への展開	28 人
平成31年 2月15日	私立光泉中学校	車椅子バスケットボール ボッチャ	83 人

7. 運営会議等

(1) 福祉センター運営協議会

滋賀県立障害者福祉センターの効率的な運営を図るため、指定管理者である公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会会長は、障害者団体や関係団体、関係行政機関等から選出された委員で構成される「滋賀県立障害者福祉センター運営協議会」を設置している。

運営協議会委員

選 出 母 体	役 職 名	委員氏名
公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会	会長	中村 裕次
公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会	監事	太田千恵子
公益社団法人滋賀県手をつなぐ育成会	理事長	崎山美智子
社会福祉法人滋賀県障害児協会	理事長	乗光 秀明
社会福祉法人滋賀県視覚障害者福祉協会	会長	大橋 博
一般社団法人滋賀県ろうあ協会	事務局長	熊田 寿貴
特定非営利活動法人滋賀県脊髄損傷者協会	常務理事	前野 奨
特定非営利活動法人滋賀県難病連絡協議会	理事	駒阪 博康
障害者の生活と権利を守る滋賀県連絡協議会	副会長	渡邊 武
社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会	福祉用具センター課長	猪飼 立子
滋賀県障害者スポーツ協会	専務理事兼事務局長	中村 道也
滋賀県児童成人福祉施設協議会	理事	伴 英治
滋賀県特別支援教育研究会	自閉症・情緒障害教育研究部会長	合田 幹生
滋賀県高等学校等教育研究会特別支援教育研究部会	草津養護学校長	安藤 清代
滋賀県立リハビリテーションセンター	事業推進係専門員兼係長	高松 滋生
滋賀県立精神医療センター	地域生活支援部主幹兼地域連携係長	伏田 善祐
滋賀県立むれやま荘	社会リハビリ課長	出野津与志

運営協議会開催状況

開催年月日	審 議 事 項
平成 30 年 8 月 29 日	・平成 29 年度事業の実施結果について センター事業実績 施設利用状況 ・平成 30 年度事業の実施計画について センター事業実施計画 ・その他 センター開設 30 周年記念行事について 県立施設の予防保全工事について

(2) 福祉センター第三者委員会

公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会が管理運営する滋賀県立障害者福祉センターで、提供する福祉サービスにおける利用者およびその家族等からの苦情に対し、社会性や客観性を確保し、利用者の立場や特性に配慮した適切な解決・改善に努めるため、第三者委員を設置している。

第三者委員

機 関 ・ 団 体	役 職 名	委員氏名
同志社大学	中立的立場 助 教	河西 正博
公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会	事業者代表 監 事	太田千恵子
公益社団法人滋賀県手をつなぐ育成会	利用者代表 理 事 長	崎山美智子

第三者委員会議開催状況

開催年月日	審 議 事 項
平成 31 年 3 月 27 日	・平成30年度苦情、要望等の解決状況について ・2019年度のセンター事業について(開設30周年記念事業、新規事業)

8. 研修状況等

(1) 研修受講等

- ①資格取得： 赤十字救急法救急員 ・ 赤十字水上安全救急員
スクエアステップ指導員 ・ 初級障がい者スポーツ指導員

研 修 名	実施月	主 催 者	受講者数
職員研修 AED・防災設備研修	4月	当センター 業務課	11人
職員研修 蜂さされ応急処置	5月	当センター 業務課	14人
水上安全法救助員 資格継続研修	5月	日本赤十字社 滋賀県支部	1人
職員研修 熱中症応急処置	7月	当センター 業務課	14人
救急法救急員 資格継続研修	7月	日本赤十字社 滋賀県支部	1人
発達障害者支援総論	7月	滋賀県発達障害者支援センター	1人
発達障害者支援施策 (障害福祉施策・労働雇用政策)	8月	滋賀県発達障害者支援センター	1人
職員研修 介護職員のための接遇とコミュニケーション講座	9月	介護労働安定センター	15人
日本障がい者体育・スポーツ研究発表会	10月	日本障がい者体育・スポーツ研究会	1人
全国手話検定試験 3級	10月	全国手話研修センター 全国手話検定試験事務局	1人
職員研修 発達障害の基礎的理解	11月	滋賀県発達障害者支援センター	14人
共生社会を支えるための障害児・者との コミュニケーション技術研修会	11月	全国障害者総合福祉センター	1人
救急法救急員 資格継続研修	11月	日本赤十字社 滋賀県支部	3人
職員研修 消防・避難訓練	12月	当センター 防火管理者	13人
職員研修 ボッチャ	1月	当センター 業務課	13人
職員研修 防災訓練（シナリオレス）	3月	当センター 防火管理者	15人

②県障害者スポーツ協会事業への派遣

内 容・場 所	期 日	人数
県障害者スポーツ大会アーチェリー競技（当センター）	5月20日	1人
県障害者スポーツ大会フライングディスク競技（水口）	6月 3日	1人
県障害者スポーツ大会水泳競技（当センター）	8月26日	3人
県障害者スポーツ大会卓球競技（草津）	11月 4日	1人

③全国障害者スポーツ大会（福井県）

合宿・練習会・大会に役員コーチとして1人派遣

(2) 目 的

実習は、実習生が当センターの機能および施設利用者のもつニーズに関して理解を深めるとともに、必要とする知識および実践の方法を習得し、もって障害者福祉の増進に寄与する。

学 校 ・ 施 設	人数	期 間
滋賀医科大学医学部医学科（早期体験実習）	4人	平成30年8月21日～8月23日
びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ学部スポーツ学科	1人	平成30年8月 8日～8月12日
		平成30年9月20日～9月24日
岐阜経済大学経営学部スポーツ経営学科	1人	平成31年3月 5日～3月 9日

Ⅱ クラブ活動

クラブ登録数 14

登 録 ク ラ ブ 名	セ ン タ ー で の 主 な 活 動 内 容
輪悠会（股関節障害者 水泳・スポーツ吹矢）	金曜日の午前練習
トップシャトル滋賀（バドミントン）	土曜日・日曜日・祝祭日の夜間練習 大会及び交流会を主催
LAKE SHIGA バスケットボールクラブ （車椅子バスケットボール）	水曜日の夜間練習 近畿リーグ及び各大会参加
滋賀県ろうあ協会 卓球部	土曜日の夜間練習 各大会参加
滋賀 H I T T O アーチェリークラブ	土曜日・日曜日・祝祭日の午前練習 各大会参加・大会主催
INFINI（車いすツインバスケットボール）	金曜日の夜間練習 各大会参加・大会主催・講習会主催
滋賀車いすテニスクラブ	月 2 回土曜日の夜間練習 各大会参加・合宿実施
滋賀県障害者フライングディスク協会	火曜日の夜間練習 大会及び講習会主催
レイクイーグル（電動車椅子ホッケー）	月 2 回金曜日の夜間練習 交流試合実施
びわこ卓球クラブ	月 1 回土曜日の午後練習 大会主催
グローバルハート（球身動）	木曜日の夜間練習 演武会開催
ホワイトドラゴンズ （精神障害者ソフトバレーボールクラブ）	木曜日の夜間練習 各大会参加
ライトニング滋賀（ボッチャ）	火曜日と木曜日の夜間練習 各大会参加
M. S. T（車椅子卓球）	水曜日と土曜日の夜間練習 各大会参加

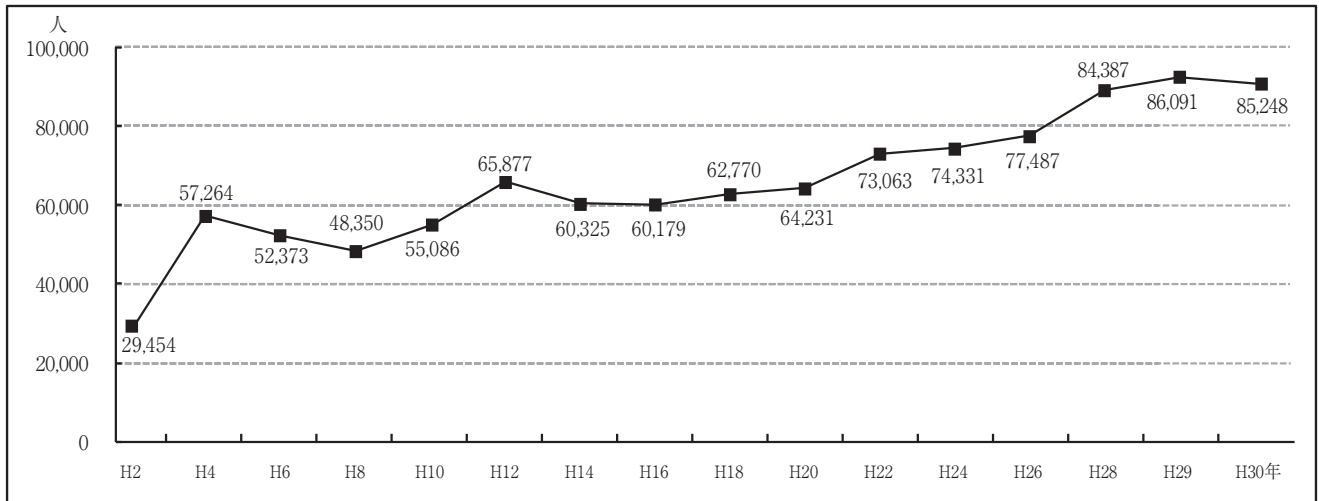
- ・ LAKE SHIGA バスケットボールクラブ(車椅子バスケットボール) は、近畿大会を突破し全国大会に出場。
- ・ ライトニング滋賀（ボッチャ）と M・S・T（車椅子卓球）のクラブ員の中からは、東京パラリンピックの出場を目指し、国際大会に出場。
- ・ その他メイン種目以外にも余暇活動の場を広めるなど活発に活動するクラブもあった。

Ⅲ 利 用 状 況

概 要

平成30年度の当センター利用は、開所日281日で延べ人数85,248人となり、延べ累計人数は1,861,933人となった。

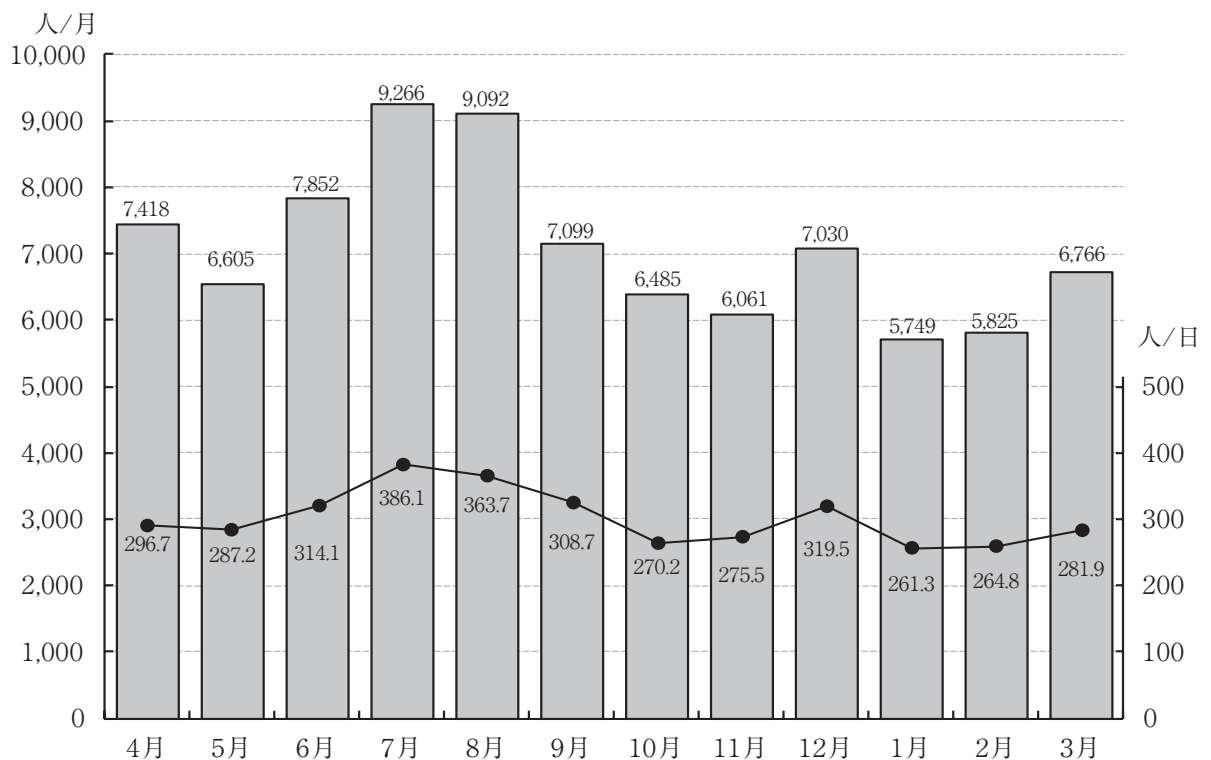
年度別利用者数



月別延利用状況および1日平均利用者数

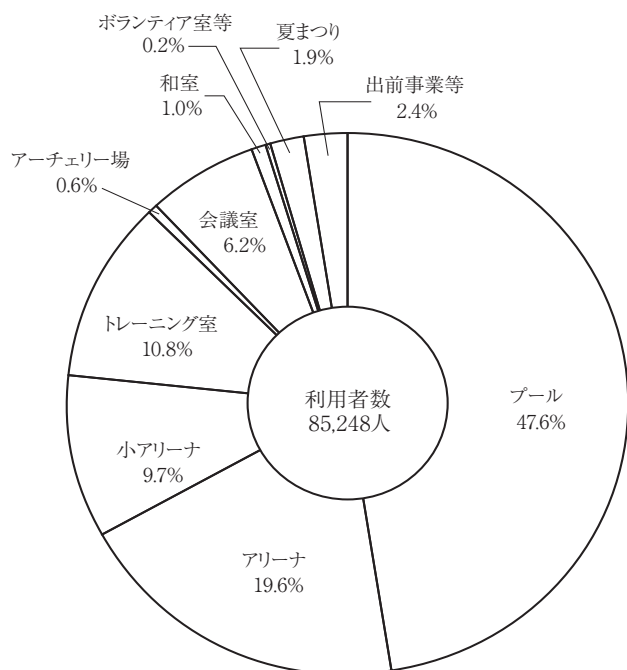
月別の利用状況は、全体的に夏季が多く7月が9,266人と最も多く、次いで8月の9,092人となっている。最も少ない月は、1月の5,749人となっている。

1日当たりの平均利用者は、年平均で303.4人、7月では386.1人、8月は363.7人となっている。



施設別利用状況

施設利用状況をみると、プール 40,548人(47.6%) が最も多く、アリーナ 16,739人(19.6%) トレーニング室 9,176人(10.8%) の順となっている。これを個人・団体別にみると、個人利用では、プール 27,491人(74.4%)、トレーニング 8,739人(23.7%)、となり、団体では、アリーナ 16,661人(35.9%)、プール 13,057人(28.2%)、小アリーナ 8,181人(17.7%) の順となっている。

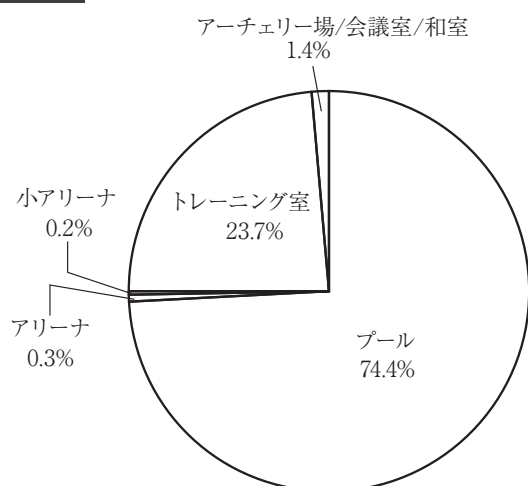


(単位：人)

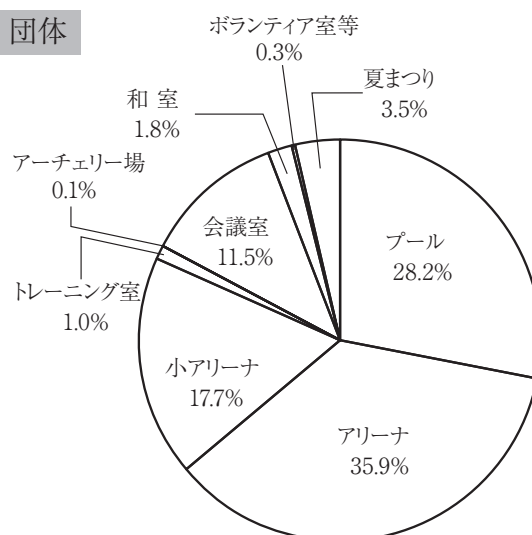
施 設	利用者数	利用割合
プ ー ル	40,548	47.6%
ア リ ー ナ	16,739	19.6%
小 ア リ ー ナ	8,273	9.7%
ト レ ー ニング室	9,176	10.8%
アーチェリー場	558	0.6%
会 議 室	5,294	6.2%
和 室	853	1.0%
ボランティア室等	157	0.2%
夏 ま つ り	1,598	1.9%
出 前 事 業 等	2,052	2.4%
合 計	85,248	100.0%

個人、団体別利用状況

個人



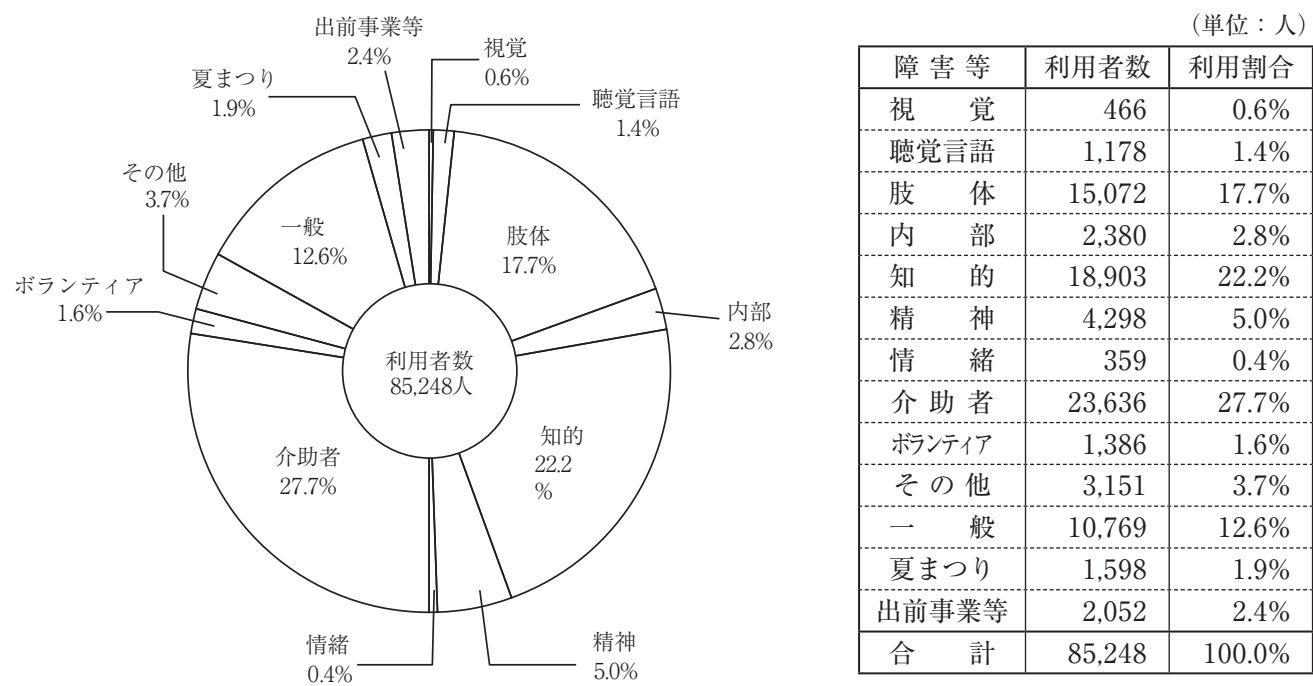
団体



(単位：人)

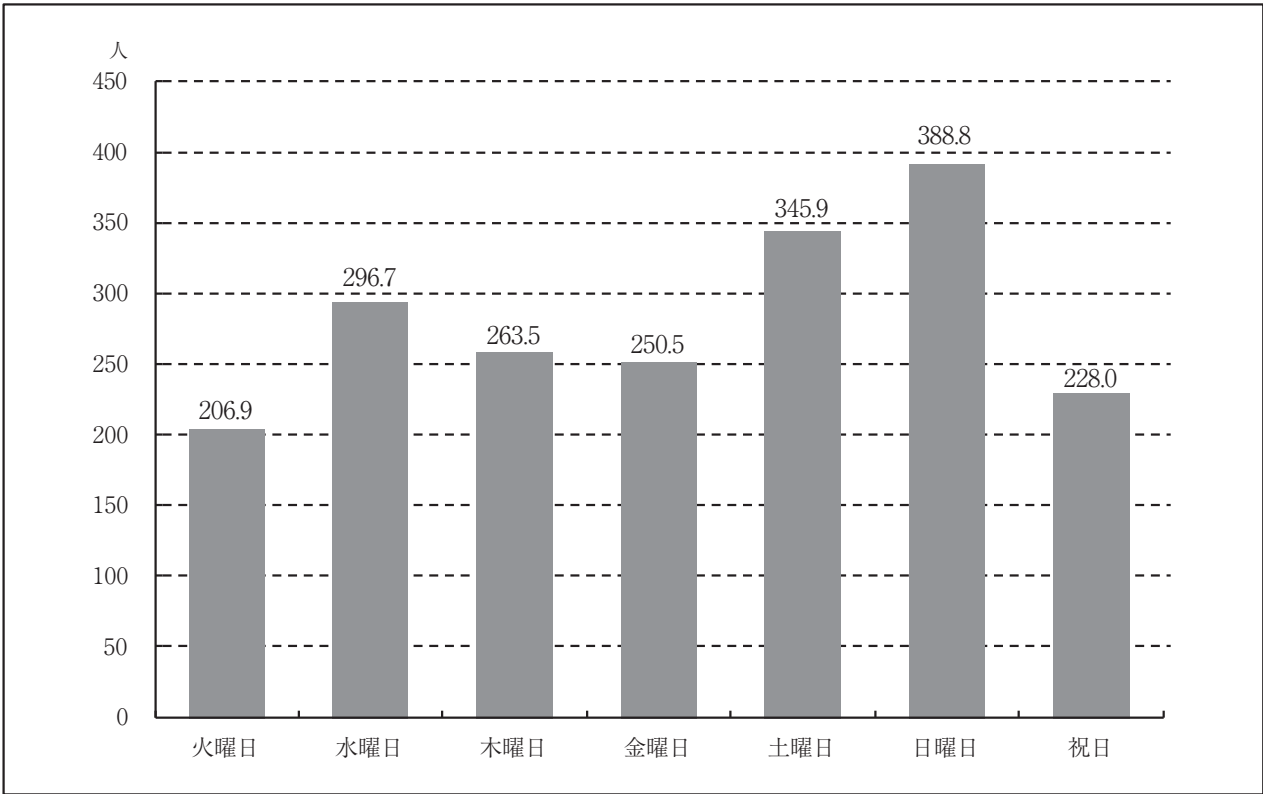
	プール	アリーナ	小アリーナ	トレーニング室	アーチェリー場	会議室	和 室	ボランティア室等	夏まつり	合 計
個 人	27,491	128	92	8,739	497	0	1	0	0	36,948
団 体	13,057	16,611	8,181	437	61	5,294	852	157	1,598	46,248

障害別等利用状況



曜日別利用状況

曜日別の1日当たりの平均利用状況をみると、日曜日 388.8 人、土曜日 345.9 人となっている。



地域別・障害別利用状況(実人数)

障 害	個 人 利 用												貸 切 り 利 用							合 計							
	大 津 市	彦 根 市	長 浜 市	近江八幡市	草津市	守山 市	栗東市	野洲市	湖南市	甲賀市	高島市	東近江市	米原市	湖東市	小 計	県 外	小 計	学 校 施 設	障 害 者 団 体		登 録 ク ラ ブ	セ ン タ ー 主 催	行 政	そ の 他	一 般	小 計	
視 覚	22	0	2	0	130	22	12	75	0	17	21	0	0	0	301	0	301	3	66	3	79	0	0			151	452
聴覚言語	22	0	0	78	59	74	54	0	1	4	0	0	0	1	293	0	293	44	384	300	44	0	0			772	1,065
肢 体	3,155	111	24	109	2,190	557	632	24	394	326	1	49	13	2	7,587	108	7,695	721	1,522	2,596	1,544	0	2			6,385	14,080
内 部	885	0	0	181	658	109	64	5	219	0	0	44	0	2	2,167	1	2,168	22	34	4	117	0	0			177	2,345
知 的	3,370	1	1	113	2,448	623	806	332	171	284	2	82	5	39	8,277	14	8,291	5,600	1,153	630	1,440	0	0			8,823	17,114
精 神	959	7	0	11	487	187	238	64	46	96	4	40	0	112	2,251	36	2,287	1,106	189	448	125	0	0			1,868	4,155
情 緒	2	0	0	0	10	0	5	0	0	0	0	0	0	0	17	0	17	309	1	23	3	0	0			336	353
介 助 者	3,705	0	7	194	3,220	717	945	444	324	292	24	131	18	32	10,053	94	10,147	4,526	2,352	2,378	2,091	0	0			11,347	21,494
ボランティア	560	0	0	0	372	14	0	0	0	6	0	0	0	0	952	0	952	26	0	7	248	0	0			281	1,233
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	302	716	37	1,087	12	330			2,484	2,484
一 般															4,797		4,797							4,224		9,021	
合 計	12,680	119	34	686	9,574	2,303	2,756	944	1,155	1,025	52	346	36	188	36,695	253	36,948	12,659	6,417	6,426	6,778	12	332	4,224	36,848	75,080	
																		夏まつり実人数		1,284							

夏まつりは区分なしであるため合計に計上してある

月別・施設別利用状況

(単位：人)

月 施設	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延人数	月平均
プー ル	3,923	2,967	4,097	4,017	4,662	3,420	3,241	2,929	2,862	2,709	2,519	3,202	40,548	3,379
アリーナ	1,661	1,542	1,346	1,530	1,741	1,310	1,230	1,052	1,535	1,236	1,255	1,301	16,739	1,395
小アリーナ	593	630	776	741	987	746	600	588	745	521	647	699	8,273	689
トレーニング室	772	858	766	727	735	657	754	738	801	784	796	788	9,176	765
アーチェリー場	71	87	88	50	50	23	42	43	17	2	18	67	558	47
会議室	353	417	584	423	621	712	271	270	532	297	312	502	5,294	441
和室	34	37	74	125	107	98	106	4	82	18	121	47	853	71
ボランティア室等	11	0	20	25	28	14	18	10	0	13	2	16	157	13
医務室	492	450	511	462	489	422	446	445	393	381	411	495	5,397	450
計	7,418	6,605	7,852	9,266	9,092	7,099	6,485	6,061	7,030	5,749	5,825	6,766	85,248	7,104
出前事業等	0	67	101	30	161	119	223	427	456	169	155	144	2,052	
開所日数	25	23	25	24	25	23	24	22	22	22	22	24	281	
日平均	296.7	287.2	314.1	386.1	363.7	308.7	270.2	275.5	319.5	261.3	264.8	281.9	303.4	
夏まつり延べ人数				1,598	夏まつりと自主事業は区分なしであるため合計に計上している									

(注) 合計には、医務室の利用人数を含まない。

施設別・障害別利用状況

(単位：人)

場所 障害	プール	アリーナ	小アリーナ	トレーニング 室	アーチェリー 場	会議室	和室	医務室	ボランティア 室等	合計	構成比 (%)	月平均
視覚	269	61	47	61	0	27	1	85	0	466	0.6%	39
聴覚言語	223	557	148	29	90	92	32	0	7	1,178	1.4%	98
肢体	6,775	3,238	1,115	2,173	296	1,365	87	3,186	23	15,072	17.7%	1,256
内部	854	64	34	1,323	0	87	15	1,544	3	2,380	2.8%	198
知的	10,066	3,357	3,066	1,698	1	538	174	507	3	18,903	22.2%	1,575
精神	1,477	1,355	375	917	1	106	67	67	0	4,298	5.0%	358
情緒	22	289	41	5	0	0	2	1	0	359	0.4%	30
介助者	11,829	5,206	2,916	2,159	96	1,142	280	0	8	23,636	27.7%	1,970
ボランティア	591	178	61	413	2	120	1	1	20	1,386	1.6%	116
その他	279	478	283	5	2	1,817	194	0	93	3,151	3.7%	263
一般	8,163	1,956	187	393	70	0	0	6	0	10,769	12.6%	897
計	40,548	16,739	8,273	9,176	558	5,294	853	5,397	157	85,248	100.0%	7,104
夏まつりと自主事業は区分なしであるため合計に計上している									出前事業等	2,052	2.4%	
									夏まつり延べ人数	1,598	1.9%	

(注) 合計には、医務室の利用人数を含まない。

月別・障害別利用状況

(単位：人)

月 障害	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
視 覚	36	29	47	39	53	25	42	36	37	42	36	44	466
聴覚言語	111	85	102	108	125	128	98	77	65	87	76	116	1,178
肢 体	1,253	1,204	1,556	1,276	1,539	1,251	1,238	1,107	1,115	1,062	1,100	1,371	15,072
内 部	245	223	246	196	195	188	210	167	155	174	169	212	2,380
知 的	1,414	1,365	2,078	1,981	2,159	1,624	1,478	1,350	1,263	1,292	1,369	1,530	18,903
精 神	360	392	359	395	303	439	469	452	303	290	292	244	4,298
情 緒	25	21	31	43	14	36	37	33	24	22	39	34	359
介 助 者	1,619	1,632	2,531	2,429	2,746	2,265	1,814	1,679	1,674	1,720	1,663	1,864	23,636
ボランティア	77	90	101	161	119	133	106	105	158	99	89	148	1,386
そ の 他	189	240	239	322	359	437	139	76	515	123	133	379	3,151
一 般	2,089	1,257	461	688	1,319	454	631	552	1,265	669	704	680	10,769
計	7,418	6,605	7,852	9,266	9,092	7,099	6,485	6,061	7,030	5,749	5,825	6,766	85,248
出前事業等	0	67	101	30	161	119	223	427	456	169	155	144	2,052
夏まつり延べ人数							1,598						

夏まつりと自主事業は区分なしであるため合計に計上している

曜日別・月別利用者状況

(単位：人)

曜日 月	火	水	木	金	土	日	祝	出前事業等	計
4	545	1,010	1,034	901	1,371	2,350	207	0	7,418
5	371	1,129	833	634	1,190	1,880	501	67	6,605
6	605	1,504	1,057	1,387	1,980	1,218	0	101	7,852
7	929	954	1,292	1,000	1,565	3,216	280	30	9,266
8	586	1,595	1,469	1,612	1,145	2,161	363	161	9,092
9	12	767	1,254	1,078	2,101	1,365	403	119	7,099
10	540	1,223	968	1,024	1,283	1,015	209	223	6,485
11	234	1,197	1,246	933	931	635	458	427	6,061
12	192	998	1,049	858	1,370	1,971	136	456	7,030
1	677	762	956	735	1,120	1,188	142	169	5,749
2	270	774	1,028	1,003	1,340	1,060	195	155	5,825
3	625	1,143	724	858	1,206	1,768	298	144	6,766
計	5,586	13,056	12,910	12,023	16,602	19,827	3,192	2,052	85,248
開所日数	27	44	49	48	48	51	14		281
一日平均	206.9	296.7	263.5	250.5	345.9	388.8	228.0		303.4

Ⅳ 利用者 と 支 え る 人 の 声

障害者福祉センターとの出会い

田口 明

私が車椅子ユーザーになったのは、2016年6月。

バイクでツーリング中に事故をしてしまい、ドクターヘリで病院に緊急搬送され、いきなり脊髄損傷。治る可能性は極めて低く、歩くことはもちろん、自分の力で足を動かすことすらできなくなり、車椅子生活を余儀なくされました。急性期から回復期に6か月、その後脊椎専門のリハビリ病院でリハビリに7か月の計1年と1か月長い入院生活をしていました。最初は車椅子に5分も乗ってられないような最悪の状態でした。もう二度と車の運転なんかできない、家に帰っても寝たきり状態になると思っていました。今でも日々幻肢痛と戦っています。これが結構辛いです。（すでに切断された手や足がまだあるように思われ、痛みを感じる状態）退院してしばらくは、何をするのも嫌で家に引きこもっていました。でも、もともとアクティブな性格だったので、何とか外に出てできる事がないかと調べていくと、ライフル射撃くらいはできそうかとチャレンジ。そこで知り合った方々に、グラウンドゴルフやボッチャ、アーチェリー、水泳などいろんな障害者スポーツに誘って頂き、今ではすっかり滋賀県立障害者福祉センターの常連に？今ではセンターの方や、センターに通っている方も気兼ねなく声をかけてくれて、センターに出かけることが最近楽しみです。車も自分で運転できるようになり、ドライブしている時や、スポーツしている時は不思議と幻肢痛の痛みがなくストレス発散。嫌なことも忘れて楽しんでいます。スポーツも少しずつですが上手になっていくと楽しいですね。こうしてスポーツを通じていろんな人と出会えたり会話したり笑ったりすることが大事ななだと思います。つつい引きこもりになりがちですが、みんなも頑張っていきましょう。また、見かけられたら声でもかけてください。

センターは「余暇の憩い」の場所

山本 順子

私達親子が福祉センターを知って20年。娘は知的障害者、私は13年前両足共に人工股関節を入れ、いつもプールを利用しています。娘は12～13年前から指導員の先生方から「水泳個別アドバイス」の指導を受けてメキメキ上達し、県大会に8年も参加して、メダルを頂いて本人はとても満足しています。

他にもアリーナでバスケットボールを教わったり、リズムでダンス、ハッスル知的、指導員と泳ごう等にも参加し、心身共にリフレッシュさせてもらっています。

また、センターを利用して知り合った方も多く出来、先生方、職員の方々がいつも声をかけてくださり、それが嬉しくて娘は、センターに行くのを楽しみにしています。

中学を卒業してから一般会社に就職し、26年目になります。（月曜～金曜 9：30～16：00 昼休み1時間）一日中立って仕事をしていますが、プール等運動をしているので体力もあり、風邪もひかず、めったに休まず毎日元気に出勤しています。休日にセンターに行って、皆さんが優しく接して下さるからだ、とても感謝しています。

娘にとり福祉センターはとても大切な場所で、「心のオアシス」なんだな—と思っています。これからもよろしくお願い致します。

感謝の気持ち

ホワイトドラゴンズ 大久保 清美

いつもソフトバレーボールの練習の場所として、又貴センターで開催される精神障がい者ソフトバレーボール湖南地区大会、県大会にはアリーナを使用させて頂きありがとうございます。振り返ってみますと、ソフトバレーボール湖南地区大会に参加させて頂く事になり、貴センターを利用させて頂く事になり早くも8年の歳月が経とうとしています。その間にクラブ登録をさせて頂きほぼ毎週練習をさせて頂き感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございます。クラブ登録をさせて頂く前は、色々なアリーナを使わせて頂いていました。貴センターは、何処のアリーナよりも、照明、冷暖房の設備は至れり尽くせりで、その環境の中で練習させて頂いて感謝しています。お陰様でソフトバレーボール県内3チームの最下位を脱するチームに成長することが出来ました。チームの皆さんからもこの様な素晴らしい環境の中で練習させて頂き、恵まれていると感謝の声があがっています。貴センターに寄せて頂いた時は、元気に挨拶をして使用ルールを守り練習に励んでいます。

練習を通して仲間を思いやり体力づくりと毎週楽しく利用させて頂いています。練習の時や練習試合、大会の時には陰ながらの職員様の声援にも感謝しております。心温まる支援と声援を励みに、更なる成績が残せるようにチーム一丸となって練習をさせていただきますので、今後共宜しくお願い申し上げます。

私とセンターの繋がり

滋賀 HITTO アーチェリークラブ代表 藤川 進

私が障害者福祉センターの利用を始めたのは、センターが開場した平成2年からで、車椅子アーチャーだった畑さんから「一緒にやらないか」と誘われたのがきっかけです。

その時は健常者で、堀江さんを中心に立ち上げていた滋賀 HITTO アーチェリークラブ員として所属し、障害者アーチャーの初心者指導・障害者スポーツ協会の競技大会のお手伝い等を行って、職員の方と関りは深く成っていきました。

20年前に病気で右股関節の手術をし、後遺症が残り、自身のリハビリのためにセンターを利用する回数が増え、また、リハビリの苦しい時も職員の方からいつも温かい声を掛けて頂きリハビリに励みましたが元に戻らず、止むを得ず手帳の申請を行い、自身が障害者となり、別の形で職員の方にお世話になることとなりました。

また、12年前より代表を引き継ぎ、クラブ員全員で開催を継続している「びわ湖杯インドア・アーチェリー大会」は、開催初期時は参加者30名位の小規模でしたが、今年開催の「第21回大会」は60名近くが参加する大会にまで拡大できたのも、職員の方々のご協力なしではやっていけなかったと思います。

今後も大会開催・クラブ活動躍進の為に、ご協力をお願い致します。

V 施 設 の 概 要

1. 設置目的

心身障害者に関する各種の相談に応じるとともに、心身障害者の教養の向上、健康増進、社会との交流促進等のための便宜を総合的に供与し、心身障害者の福祉の増進を図る。

2. 建設の経緯

- | | | |
|------|-------------|---|
| (1) | 昭和61年 7月11日 | 身体障害者福祉センターA型検討委員会設置 |
| (2) | 昭和62年 3月 | 身体障害者福祉センターA型整備の基本構想の結果報告 |
| (3) | 平成元年 7月 3日 | 建築工事着工 |
| (4) | 平成 2年 4月 1日 | 滋賀県立障害者福祉センター開設準備室設置 |
| (5) | 平成 2年 6月27日 | 建築工事完工 |
| (6) | 平成 2年 8月 1日 | 滋賀県立障害者福祉センターに名称変更 |
| (7) | 平成 2年 8月 4日 | 開所式 |
| (8) | 平成 2年 8月 7日 | 一般開放 |
| (9) | 平成 8年11月 4日 | 多目的トイレ新築工事着工 |
| (10) | 平成 9年 3月27日 | 多目的トイレ新築工事完工 |
| (11) | 平成 9年 4月 1日 | 多目的トイレ供用開始 |
| (12) | 平成14年 2月20日 | 正面玄関横車椅子用駐車場へ屋根設置及び多目的トイレへオストミー対応化工事(1ヶ所) |

3. 建設の内容

- | | | |
|-----|---------|---|
| (1) | 所在地 | 滋賀県草津市笠山八丁目 5 番 130 号 |
| (2) | 規 模 | 敷地面積 12,679 m ²
建築面積 4,067.676 m ² 延床面積 3,970.219 m ² |
| (3) | 構 造 | 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造）勾配屋根平屋建 |
| (4) | 建築工事費 | 約 12 億 2 千万円 |
| (5) | 障害者への配慮 | ア 正面玄関等に誘導チャイム
イ 玄関ホール等に点字案内施設図
ウ 所内外に点字誘導ブロック
エ 正面玄関横車椅子用駐車場へ屋根設置
オ 屋外からの出入口に感知式自動開閉扉
カ 各室出入口に半自動開閉扉
キ 廊下に所内案内点字付き手すり
ク 身体障害者用便器・洗面器
ケ ナースコール（プール、アリーナ、便所、更衣室等から事務室へ）
コ 会議室に集団補聴設備（テレホンコイル付き補聴器受信可能）
サ 多目的トイレに自動扉・ウォシュレット4台設置・収納式多目的シート
オストミー対応・（人工肛門・膀胱造設者）1ヶ所 |

- シ 冷暖房設備、床暖房設備（プールサイド、男女更衣室）
- ス 車椅子で飲める水飲み器
- セ 文字放送地上デジタルテレビ
- ソ 公衆ファックスの設置（H8年）
- タ 全館にスプリンクラーによる消火設備
- チ 玄関および観覧ホールにA E D設置
- ツ アーチェリー場に雨よけ屋根設置

(6) 施設の内容

施 設 名	面積(m ²)	内 容
ア リ ー ナ	809.47	バスケットボール、バレーボール、テニス、バトミントン等のライン区画、各種スポーツ用具、バスケットボール用電光表示板、放送設備等設置、冷暖房設備完備
		付帯施設：男女更衣室、車椅子置場、器具庫
小 ア リ ー ナ	135.71	卓球（サウンドテーブルテニス・一般）、遊具設置
トレーニング室	95.36	トレッドミルやエアロバイク等10種類の運動トレーニング器具を設置
温 水 プ ール	750.76	FRP 製 25m × 13m(6 コース)、水深 1.35m ～ 1.55m 日本水泳連盟公認、水温 30℃、室温 32℃に設定 車椅子用入水スロープ、床暖房、プールフロアー(2 コース)、水中スピーカー、水質自動監視装置設置
		付帯施設：採暖室、男女更衣室、個室更衣室、身障者用便所、観覧ホール、器具庫
会 議 室	158.59	100 人収容、スライディングドアにより 3 室に間仕切り可能、集団補聴設備、ビデオプロジェクター設置
和 室	40.90	10 畳× 2 室、文化・教養活動用として利用
医 務 室	13.86	応急処置、医療相談、利用者の健康相談に利用
ボランティア室	51.32	ボランティア養成・交流・障害者団体交流用として利用
ラ ウ ン ジ	67.85	障害者福祉やスポーツに関する専門図書や資料を備え、障害者の情報提供の場、談話室として利用
そ の 他		多目的ホール、事務室
屋外アーチェリー場		9 的(30m、50m)
駐 車 場		64 台(うち屋根付障害者専用 4 台、障害者専用 11 台)

- (7) 平成 30 年度の主な改修工事
 ア 高圧ケーブル取替工事
 イ 気中開閉器、地絡継電器取替工事
 ウ 防犯監視カメラ取付工事
 エ アーチェリー場への歩道改修

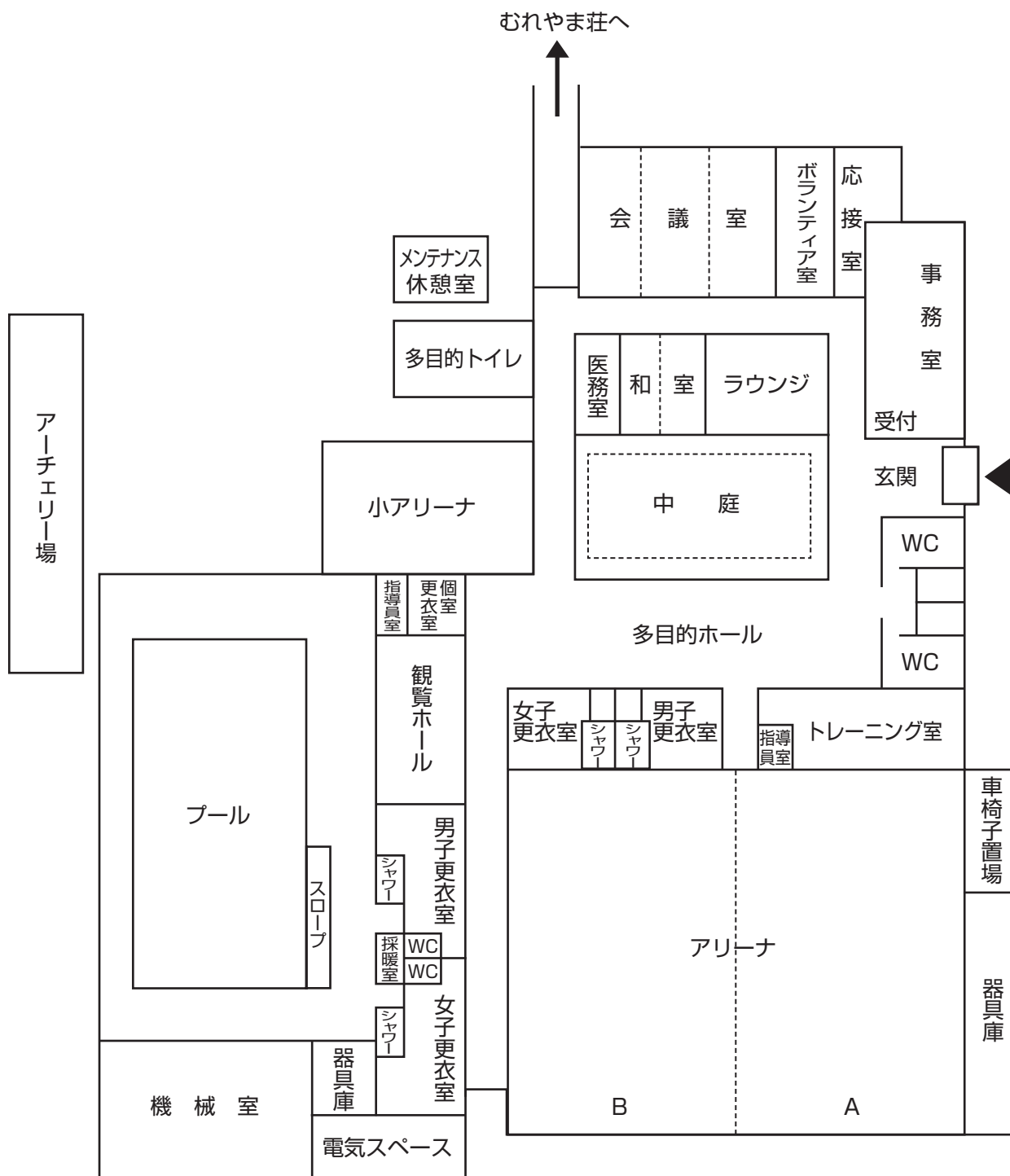
4. 管理・運営

- (1) 設置主体 滋賀県
 (2) 運営主体 指定管理者 公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会
 (3) 休 所 日 ・ 月曜日（休日である場合を除く。）
 ・ 休日の翌日（土曜日、日曜日または休日である場合を除く。）
 ・ 12 月 29 日～翌年 1 月 3 日
 ・ 上記のほか管理者が定めた日
 (4) 開所時間 9 時 30 分～ 20 時 30 分
 (5) 利用時間

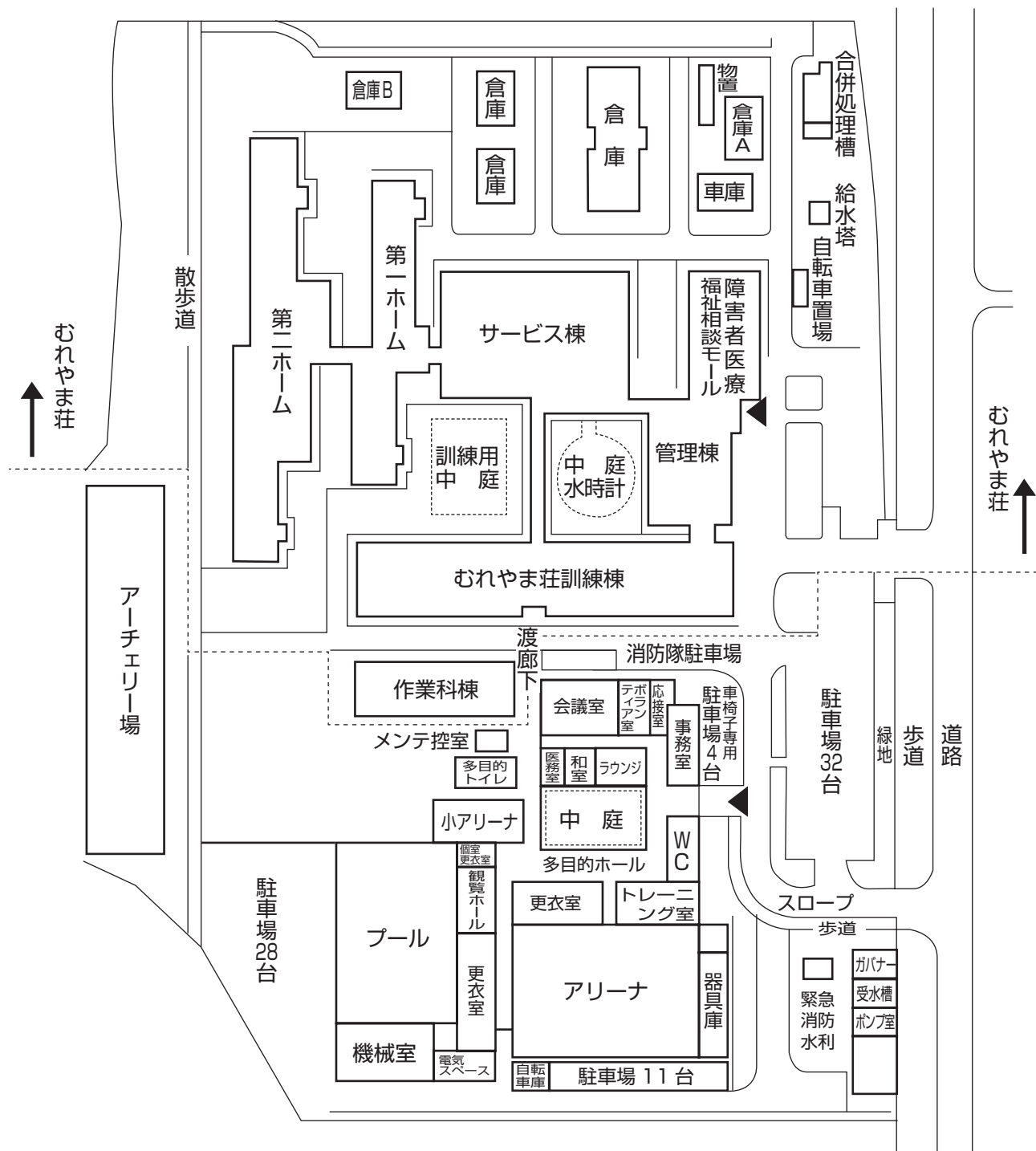
区 分	全 施 設
午前の部	9 時 30 分 ～ 12 時 00 分
午後の部	13 時 00 分 ～ 16 時 30 分
夜間の部	17 時 30 分 ～ 20 時 30 分

- (6) 利用対象者
 ア 身体障害者手帳所持者
 イ 療育手帳所持者
 ウ 精神障害者保健福祉手帳または精神障害の状態に関する証明書所持者
 エ 特定医療費（指定難病）受給者証所持者
 オ 小児慢性特定疾病医療受給者証所持者
 カ 前記ア～オに掲げる者とその障害が同程度と認められる者
 キ 前記ア～カに同行してきた介助者
 ク 登録ボランティア（障害者等の利用を妨げない限度において利用可）
 ケ 前記ア～カに掲げる障害者以外の者（障害者等の利用を妨げない限度において利用可）

平 面 図



配置図



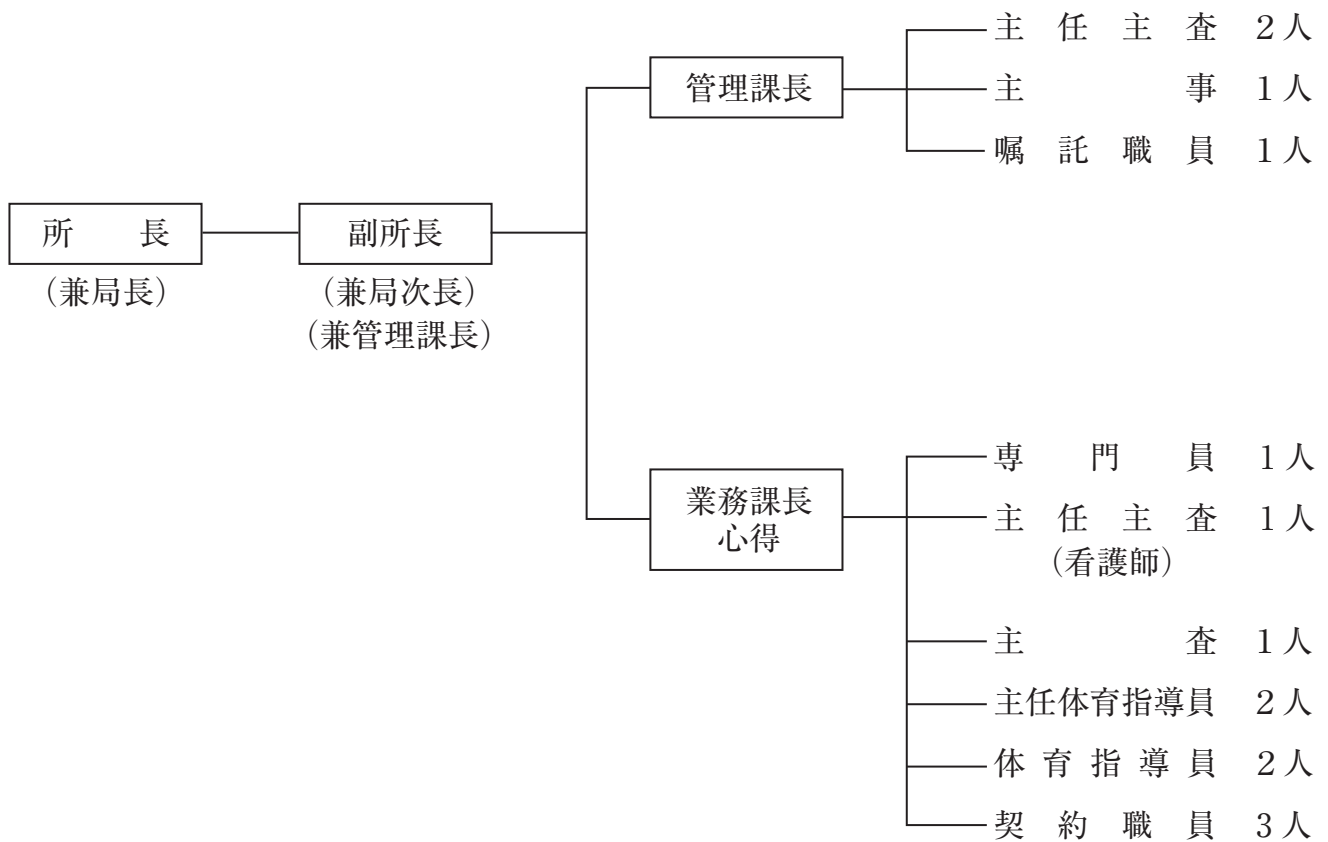
VI 組 織

1. 組織図

当センターは、公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会が滋賀県から指定管理者としての指定を受けて、管理運営をしている施設です。

職員体制は表のとおりとなっています。

(平成 31 年 4 月 1 日現在)



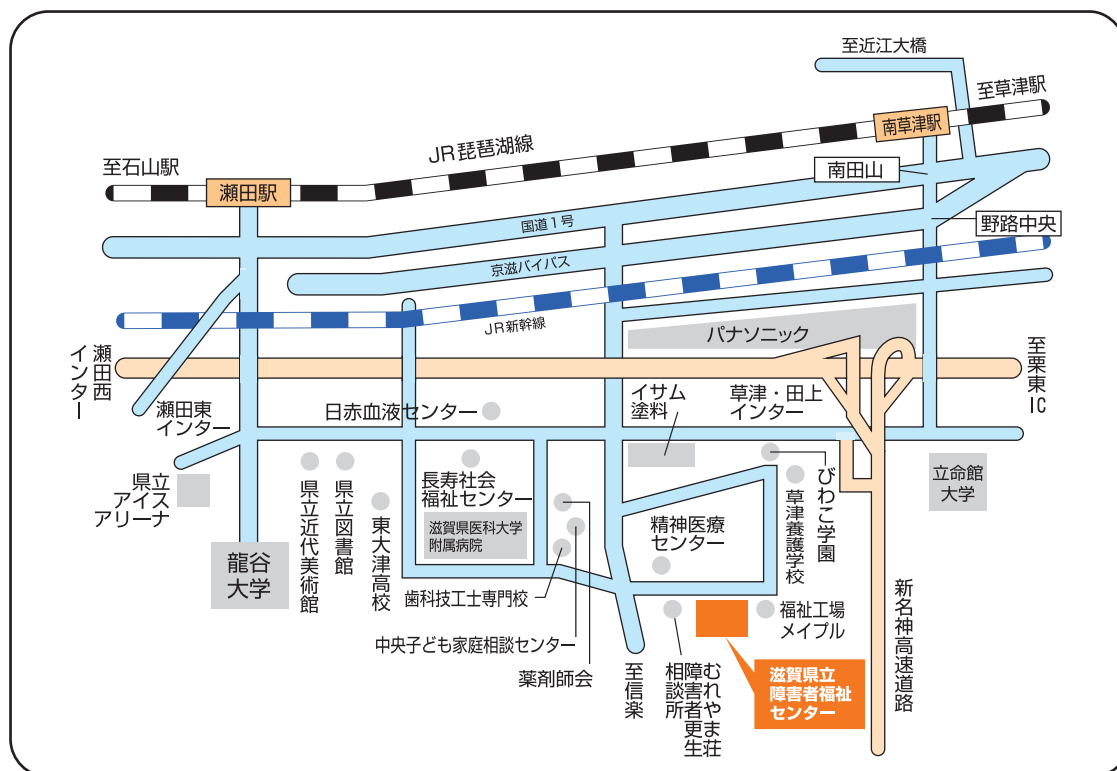
滋賀県立障害者福祉センター

〒525-0072 草津市笠山八丁目5番130号

TEL 077(564)7327 FAX 077(564)7641

<http://www.shiga-fukushi-center.com/>

E-mail webmaster@shiga-fukushi-center.com



●電車での来所

JR 南草津駅(バスのりば⑥番)から 総合福祉センター前下車

※ JR 南草津駅と障害者福祉センター間、路線バス(ノンステップ)が運行されています。(帝産湖南交通)

●高速道路利用の場合

名神・新名神高速道路 草津・田上インターから約3分